

塾 教 育	農 村 學 校 (場 道 民 農)
二、社會的、協和的原理(國民の尊敬、同情、助力) 三、宗教的原理(神を愛敬し、心、自然、歴史に神を見る力)	一、國民的、民族的、原理 二、生産勞作の原理(平民的) 三、社會的協和的原理 四、自力、實踐の現實的原理 五、宗教的、乃至宗教的信念の原理
ちつき、塾の社會共同體) 三、宗教的心情と行動	一、農民精神の體得 二、農民勞働の體験 三、共働互助精神の涵養 四、農家農村經營の實習訓練
尊重 三、道德教育と宗教々育との近接(模範、實例、實行から修得、神の愛のつなぎを考へる) 四、自然的環境の重視(森、山、草原、庭園、水)社會的環境の顧慮(村の平和、家塾の同胞的) 五、藝術的想像的教育の方法と重視 六、知識教育は實際的實驗的實習的生活的)	一、地方制度、自治、行政、農學、日本精神、農民道の教育 二、日本體操、武道、軍事教練實施 三、自力、共同自治の生活

勞	民 族 學 校 (校 學 科 精 本 日)	鄉 土 學 校 (校 學 育 教 土 鄉)
一、身體的勞作、精神的勞作原理(自己活動、手工的、精神的、形式價值尊重) 二、創造的學習形式の教授原理	一、民族的、國民的の原理(歷史的、生々發展的)(歷史的繼續にする) 二、歷史的、社會的の原理(歴史と社會生活の尊重) 三、自主的、自己活動の原理	一、情意的、精神的の原理(感情意志に直接關係する)(郷土生活體験の原理である) 二、現實的原理(兒童郷土の實生活に近接) 三、社會生活の原理(郷土社會改善向上の理想、實現の努力をする) 四、國民的民族的原理
一、遊戯、造形、「創造」行動を勞作し價值體験、價值創造せしむ(身體的、精神的發達) 二、創造的學習の形式を教授原理	一、民族の産出したる文化と生活價値の陶冶(文化教授、文化創造心の態度教育) 二、民族社會の精神内容の體験による自己形成 三、自力的自主的活動の陶冶	一、兒童の根本感情の陶冶(兒童の内部の力開發) 郷土の知識を確實にし、理解が目的ではない) 二、郷土愛、郷土文化等歷史的關係を主とし、郷土に愛着を持つ、精神態度の教育
一、低學年合科教授 二、手工的教授尊重(小細工、造形、木工、金工) 三、園藝、農事、動物飼育	一、協和の學級生活と學習 二、教師の人格中心と自發活動の一元に立つ指導 三、合同生活の機會施設(合同行事) 四、形式實踐と國民心情の陶冶(作法、國民態度) 五、精神的教科尊重	一、生活による郷土の理解に出發する(綜合教育と郷土行事の實施) 二、郷土科の特設 三、郷土のカリキュラムの構成

校學作

(意識された勞作過程、筋肉運動的過程、認識と内的體驗の行動表現、勞作觀念による教材選擇、教案作製、教具準備)

- 一、工作教授の原理(教室勞作手工室勞作)
- 二、勞作共同體構成原理(信念苦行、形式價值尊重)

理とし、工作教授を教科とす

- 一、勞作共同體の構成による國家社會人類への奉仕

- 一、實科尊重(裁縫、家事、育兒、割烹)
- 二、作業科特設
- 三、共同社會的作業中心の生活經營
- 四、學習の苦行的態度

校學驗體
(校學民國新)

- 一、六大原理(生活體驗—生活體驗による生活發展
遊戲體驗—遊戲による基礎體驗、作業體驗—作業による價值形成の生活
個性體驗—個性的活動による價值形成、郷土體驗—郷土體驗による生活基礎體驗
社會體驗—社會的文化的人格形成)
- 二、身體的勞作精神的勞作自己活動原理

- 一、知情意的全一の活動(直觀と概念、合理と非合理、知と行)
- 二、生活一元の教育(教材と兒童と教師と)
- 三、具體、直觀、行動の重視

- 一、教育過程(認識的過程了解的過程)
- 二、生活科特設、作業科特設
- 三、個性的方法(個性學習)
- 四、遊戲學習、作業學習、共同作業學習
- 五、自治團組織
- 六、國民的社會的行事施設
- 七、田園生活場

校學村農新

- 一、特殊化の原理(地方化、郷土化)
- 二、現實性の原理(實生活化)
- 三、國民的、民族的原理
- 四、實科の原理(職業的陶冶)

- 一、郷土と國家に生活する兒童生活の發展
- 二、土に着く農民精神鍛鍊
土に着く勞作體驗(勤儉力行協同一致融和互助)
- 三、教育者精神の確立
- 四、國民的、民族的陶冶(信念實踐、生々發展、共同、活動天皇中心)

- 一、精神教科、實業教科、體育教科、藝術教科、基礎教科(數理科)の樹立徹底
- 二、國民生活形式の實踐
- 三、國民保健の向上
- 四、動植物園經營
- 五、實習場經營
- 六、歴史的社會的行事
- 七、購買販賣組合經營

第四編 新農村學校の經營

第一章 一元化の原理と實際
第二章 人格中心の原理と實際
第三章 生産の原理と實際
第四章 協同社會の原理と實際
第五章 精神的指導の原理と實際
第六章 國民作法の原理と實際

第一章 一元化の原理と實際

一如融合の生活を指導する教育といふことは日本精神教育には大切なることである。一如融合の教育とは、(一)教師と兒童、即ち主客體の一如の教育であり、(二)教師と文化との一如一體の教育であり、(三)兒童と文化とが融合する生活の教育である。

(一)教師と兒童とが一如の姿をなさないとは、教師が兒童を理解しない、兒童は教師を理解しない姿、兩者の間に對立のある状態のことである。即ち叱る時に空しく叱り、叱られる者は空しく叱られるといふ内からの生活でない、外からの關係生活である時の姿であると思ふ。

教師の或る者の受授學級は教師が出勤して、教室にある時は沈黙して學習してゐる。即ち善良なる生徒であるが、一度その教師が缺勤したり、教室外にあつたりする時は、平常生活を失ひ、不良を發揮するといった學級がある。かかる教師と兒童との間に

は、平常一如の境地がない証據である。かくてはこの學級の兒童には自己自律の活動自主の學習としては全く望むことは出来ない。

一如融合の境は愛の境地であると思ふ。親心を子心とし、子心を親心とし、子弟の心はまことの一體となつた時であると思ふ。このまことの生活、愛の生活には彼の體罰、しかも形式的なる體罰はない。愛の體罰はあるかも知れない。即ち打たれても尙ほ打たれ縋る兒童の心があるかも知れない。

一般には體罰は許されないものである。教育は愛の生活であるからである。私はいつても體罰を加へる教育者は最早教育者たるの資格を失つてゐるといつてゐる。愛は兒童の心の中にのみ生きて行くものであつて、體罰によつて出来た溝を越して行くことは難かしいのである。

(二)教師と文化との一如となることも日本の日本たるところである。日本の古の師匠は、師匠の人格を通して教育をしたものである。例へば彼の藝道の教育の如きも、曲目を先にして道を教へたのではない。(客觀的なる文化をもつて教育して行つたので

はない。)人を通して藝を教へたものであつたのである。

教材研究は單なる教材研究になつてはならない。教材研究の教材を外部に現はして行くのは拙なる教育となる。即ち眞の教育ではない。眞の教育は深い教材研究が教師の人格の中に融け込んで、兒童の中に生きて行く指導であることである。

教師と文化と融合しない教育は文化を注入する注入教育ともなり、概念を概念として傳へる概念的教育となり、知識を傳達する主知主義教育となり、行に轉じ得ない機械的學習となるものである。

教師が文化に融合する教育に於ては、文化、教材の研究の上に教師が兒童になりきることである。そこに教材が生き、兒童が生きることになるものである。

教師が兒童になりきるといふことは、教師が自己を捨てることである。自己を捨て、こそ眞實の立場に立つことになる。自己を捨てずしては自己意識は出来ないし、教育者生活も生れて來ない。

(三)次ぎには兒童と文化を融合することである。兒童が文化に融合するとは、兒童

自らが、文化を取り入れる。出来上つてゐる文化を文化として概念を概念として受入れられるのではなくして、文化に融合して文化を自己の中に形成して行くことである。

文化を自己の中に形成して行くには、児童から活動し行動して行くのでなくては出来ない。日本精神教育に於ては、日本精神を古い昔のまゝの具つた物として考へてはならない。そう考へれば過去の文化をそのまま教へればよいことになるが、そうではない。生々發展する文化と文化精神とを形成して行くのであるから融合一如の教育でなくてはならないのである。

第二章 人格中心の原理と實際

教育の最終の問題は教育者の問題となるものである。如何なる教育主義、教育立場にあるものも教育者の人格を考へないものはない。即ち知識を進めることを考へる者も、感情、情意行動を重んずる者も、文化を教へんとする前者、児童が將來に向つて形成して行かうとする後者も、それを指導する教師は、知識の深いこと、廣いこと、

技能の優れてゐること、徳性の磨かれてゐることから誘導し得られるものである。

児童の自由なる發達をのぞむためには、教師自身が自由なる人格を備へて居らなければならぬ。それに表裏して堅固なる人生觀と教育の理想とを持つて居らねば、自由への導きとしてはのぞまれないものである。

いくら美を極め、理想的完備をしてゐる校舎と教室と設備とを有して居たとしてもそれは全くの一つの裝飾たるに過ぎないことになるのである。

人によつて人を誘導せんとする道が法を生じ、その法が教へとして現はれて來るものと信ずるのである。人を通じて導かれ體得するものであるからたとへて讀書するとしても、その人格を慕ふことによつて道に通せんとすることになる。

かく考へる時、教材と論理とを知るにも、信順が教材を産んだり、教材として持ち運ばれたり、教具が生きて働いたりするものである。人なくしては全くの知識技能の自覺となり、概念的に抽象した寄木細工の知識を自得することに終るものである。

私は新教育の建設を念願するものであつて、教材の如きも子供の生命生活から見て

子供の生活から材料を選び、自己活動を重んじ、自律主義、内面的動機を重要視する児童を中心とし児童の内部に求めて行く教育を考へるものである。

かうした私の立場からも教育者人格からの誘導を重要視するのである。勿論形式統率、他律團體中心、秩序萬能により、外部からの價值批評を與へて模倣と強制とを以て指導して行くものではない。

新注入主義の主張する「教師の人格の力を以て、児童の個性を感激に導き、彼自身の自發的能動的意志行爲を喚起せしめる様仕向ける」云々に於て、新注入主義の命題が面白くない。

私は教師の熱を中心としたいくない。熱は熱を生み、教師中心となり、児童の個性の自由發展、自由活動を妨げる。そして人格の發展までも害することになりはせぬかと思ふのである。私は児童の人格發展のための誘導者としての人格、教育者人格を、世の人々の多くの人々より以上のぞむものである。

こゝに児童は自己が働くことになる。即ち児童のまことの心が活動することになる

のである。このまことは實は日本精神である。まことの外に顯はれて行となり、日本的學習の眞の姿であることになる。

第三章 生産の原理と實際

生産學校は如何なる教育であるかを吟味することは、私の研究しようとする日本精神の新農村教育を建設するのに參考となる點が極めて多くあると同時に、反省の多くを與へてくれるものであるから、その形態の全面を掲げて見ようと思ふのである。

さてこの生産學校は如何なる教育の原理を含んでゐるのかといふに、第一には生産活動の原理を原理とする。第二は現實的な原理を持つてゐる。地方の現實と児童の實生活とが近接し、教育は現實的である。第三は社會生活の原理をもつてゐる。即ち社會生活を生活することによつて郷土社會生活を體驗せんとするものである。

これ等の原理に立つての生産學校の實際は如何にあるかを見ることは、又大切なることであると信ずる。即ちその實際は

一、水族館、産業館

魚類の直観材料となるのは勿論のことであるが、それは産業の理解と産業習得の上に價值がある。

二、品種改良、蓄産、果樹、竹林、茸類の試験場經營、これ等の産業、生産品の試験研究をなすことは、興味をもつことであり、その結果も期待されるものである。

三、農藝研究會

講話、視察、栽培、共同販賣、共同購入、品評會開催等は相當なる成績を期待されてゐる。

四、基本財産造成——貯金

學校に基本財産を造成することは私の年來の主張である。農村學校は比較的容易に實現出来ると思ふ。勿論容易といつても都市の學校に比較してのことで、ながく容易のことではない。

先づ一萬圓あれば利子、年五百圓で職員の研究費かボーナスの金になる。それが十

萬圓となれば、學校經費年歳出の半分は利子から得られる。二十萬圓となれば學校は村經常歳出から獨立出来る。

そんな空想をといはれるかも知れないが、兎に角一萬圓の基金が造成されたならば校長、職員は村の理事者にそう頭を下げなくてもすむことが多くなる。それを私はのぞんでゐるのである。

何とかして造りたいものである。場合によつては父兄會後援會の積立もよいが、それではやつぱり獨立出来ない。

學校植林地經營、學校工業利益金、實習地經營の収益金、不時の寄附金、卒業生の寄附（時によつては止めた方がよい學校と場合がある）購賣部利益金、兒童の學校理髮による収益等を積立て、行く。

先づ基金造成第一代校長、職員たるもの、信念を確立し、趣旨、細則を設け、度量を大きく持つて、しかる上に十年計畫に取りかゝるべきである。かゝることなき以上何時の日にか教育の獨立をのぞむことは出来ない。

児童に勤儉貯蓄の美風と經濟觀念を養成するために児童貯金を組織立てることが必要である。児童に行はしめる以上職員も共に實踐せねばならぬ。

家事手傳、親戚知己等から得たる金、豫算生活による節約金、他家手傳より得たる駄賃、裁縫仕立より得たる賃金、其他不時の收入等を貯金せしめるもので据置法により學校長職印にて代印して團體取扱ひを受ける等がよい。

五、學校植林地——草刈

植林事業は大切なることである。それで模範的なる學校植林地は村の植林事業を向上せしめるに與へて力がある。夏季などは高等科全児童に下刈をなさしめるがよい。

又共有林、私有林の了解を得て下刈をなさしめるのもよい。

草刈といふことは暑中休暇の日課としては男女を問はず課せられる。これは自家でも手傳はせるがよいし、學校でも當番をもつてなさしめる。そして推肥を作らせ金肥を少なくする方法にするのである。

六、藥草採取(山野自然生)

山村には多くの藥草が自生してゐるから、これを児童に採取せしめる。そして日陰干として、全児童の採集せるものを一定の期に取纏めて藥種商へ販賣する様にする採集せしめる主なる藥草といへば夏季では次ぎの如きものであらう。

げんのしやうこ

どくだみ

せんぶり

おほばこ

りんどう

たまばら

山百合(地下莖、生のままにて)

七、學校實習地

養魚——池を作るか、小川を池代用とするか何れにしても清水を湛へて、鯉、鮒等を養ふ、収支餘りを生ずることは勿論のこと、有利なる仕事として農村民の注意を向けて欲しいことである。殊に人の氣の付かぬ様な池を利用して生産することは一層結構なことである。

養蛙——溪流とか溝とか更に少々の空地を利用して食用蛙を養飼することものぞま

しいことである。

家鴨——又溪流とか池とか、河とかは家鴨の飼育も出来る。家鴨雛の孵化、採卵、取肉と極めて有利なものである。糞も鶏の糞と共に効能があるから十分利用出来る。養蜂——分蜂さては採密何れにしても有利な仕事である。全村をもつて養蜂箱の分布地とすることも面白い計畫である。カーニクラレ種、コーカシヤン種、日本種といろいろの種類を養ふも面白い。

養蠶——春、夏、秋蠶は山農村の主なる副業となつたり、主業となつたりしてゐるものであるから學校でも、養蠶をして行きたいものである。

學校としては理科的陶冶の上から又實業的陶冶の上からも考へられる。又こんなことも考へられる。三蛾か五蛾かを無償にて配布して、各兒童の家庭養蠶室の一隈を以て飼育させる。收繭後は學校に於て、品評會を開催し、後共同販賣をする。賣上代金は旅行費其他の教育的方面に使用することは實驗の結果に照して頗る成績がよいことである。

學校で共同養育するとなれば低學年兒童には桑摘みを、高等科兒童は主體となつて働かせるのである。成育盛りの時期は教師と兒童の男生とが當直せねばならない。収益金はたとへ時價の上から少ないとしても教育的には價值が相當あるから止められない作業である。近時洋服地への工作、羊毛化への研究と進展して來たので、時價もやがてそう悲觀したものではなくなると思ふ。

養鶏——學校としてはゲーム種禽、リーグホーン卵用種、卵肉兼用種等と純粹種を飼育したいものである。鶏卵として、孵化して兒童に分配してやつたり、市場へ供給したりする。人工孵化の實施は林農舎と連絡して孵卵器を購入してやる事が實行し易いものである。

養兎——ポーランド種、ベルヂヤン種等が飼養せられる。近來アンゴラ種飼育せられ、その毛が羊毛をしのぐの防塞効力を有することから、鐘紡會社又力を入れ全国的に盛んになりつゝある。

山羊——ザーネン種乳用種は毎日二升から乳が出る。藁、根菜、樹草葉等で飼育し

て行くもので、滋養價も牛乳以上であり兒童や村民に供給して効果が多い。

養豚——飼料の範圍が広いことから便利である。即ち藁、乾草、根菜糠、粕類等によい。

乳牛——乳牛の飼養といふことも有利なることである。學校では體質強健にして食物の變化とか寒氣とかに堪へる種類がよい。兒童或は村人に乳を供給する様にする水田經營(田植、稻刈)——苗代と本田とを持つ。苗代には紫雲英、鯉苗を副産とする。

教師、兒童の田植、取入れ誠に楽しい行事である。

裏作として麥、苺を栽培する。多くの収益を見ることが出来るものである。

桑園——桑園の如きは桑樹の品質をなるべく多數にて肥料試験、試作成績を村民に報告して参考にしたいものである。學校の桑園は村の實驗場であらしめたい。

蔬菜園——共同圃・個人圃、職員圃、苗圃、趣味圃、温室を慾しいものである。兒童には實習手帳を持たしめる。そして豫定計畫、管理、生育、收穫、品質、収益、

農場利用の良否、栽培方法の適否、技術當否等について調査記入せしめておく。

趣味圃といふのは尋常科兒童の農業趣味養成のために栽培せしめるものである。

果樹園——梅、桃、梨等を栽培する。篤農家、村の技師、學校教師、兒童が協力しての成績向上こそ欲するところである。

茶樹園、茶樹垣——宅地利用の立場から茶樹垣もよい。又來賓用、職員用さては販賣目的から茶樹園の經營も面白い。

花壇——花卉の栽培をなし、美的趣味を喚起し、情操教育ひいては道德的陶冶に資するのである。

芍薬園、カンナ園、ダリヤ園、薬草園、竹材園、蔭花植物園などとし、花叢花壇、模様花壇と適當な方法によることにする。それは校地、校舎等の配置にもよつて定まる。

盆栽の仕立——盆栽の仕立をなさしめ、栽培することは、自然愛の向上、趣味の向上なることが大きいのである。

雑木林の伐採の後等には面白い株物等が澤山あるのである。その他幼樹の植込み等は直ちに盆栽として仕立られる。鉢がなくとも古桶でも古鍋でも、古樽でもよい。數年間持越したものならば高價なものとなるから、學校の手でもつて植木職か又は都市の植木商會、會社へ販賣する。自然木中例へば盆栽として價值あるものは次のものなどであらう。

松、杉、樺、楓、柏、ぐみ、にしきぎ、吐松、いはたばこ、いはひば、しのぶ、せきこく、かしや、あけび、おにづた等

當番制度——當番勤務の制度を設けることは極めて必要なることである。次ぎの様な作業に當らなければならぬ。

栽培管理作業

飼育管理作業

美化作業

整理作業

修理作業

そこで週番當番を作つて、正課外の時間の作業に當らせることにする。細かい組分けとか、人数などは、範圍によつて定めねばならぬのである。

當番には日誌を持たしめ、日誌をもつて次ぎに引繼ぐ様にする。毎日教師の檢閲を受けさせることも大切である。

依託實習——個別に或は共同に相當の經驗と成績を收めて來ると趣味を持つに至るものである。その時、高等二年又は三年になつて、其土地の篤農家とか特殊事業の經驗者、農業獎勵員といつたところに依託する。

方法としては毎月一回以上を終日、全くその家人と同時に實際的な仕業に従事して實際を實習せしめるか、又は更らに夏季休暇等に一週間なりを交代で實習のため依託するのである。

必らずや、實際の活動を知り、經營態度を知り、將來への心組みを精驗するに至り多大の便益が生ずることになる。

例へば、苗代整地、養蠶上簇、害蟲驅除、稻田除草、競作田插秧、根菜類播種、稻收穫、麥播、養鶏養豚整理。農産製造、果樹園整理、促成栽培、産業組合事務といつたことなど澤山ある。細かい方法については地方的に研究してかゝらねばならぬ

ことはいふまでもないことである。

依託生徒には實習日誌を詳細に書かしめる。その日誌の上について實習事項を指導してやることもよい。

女子には優良なる家庭を選んで依託し、終日その家庭實務を見學實習せしめることもよいことである。

即ち(一)掃除、洗濯、整頓、調理、家政といった家事に關する直接の實習、(二)坐法進退應接、物品授受、食膳等の作法の見學實習(三)電話使用、家具整理、日用品の節約等常識事項の習得となり、(四)優良家庭の長所を體驗得、(五)從順、勤勉克己、忍耐等の徳を養ひ得、(六)自己を自ら知るに至るものである。實際にあつては、二三名宛組合はせ、毎月一回位、一晝夜一泊する様にし、(當日の放課後から翌日の午后三時頃まで)子女教育に熱心なる家庭、主婦健全にして病患なき家庭風に特長ある家庭、壯年の男子なき、子女ある家庭を選ぶがよい。

八、農林手工業

彫刻(木彫)——兒童の好みによつて、木彫を課すのである。材料はその地方を實際に細かに見れば見附かるものである。やがて學校生活から、學校手工から山村副業に發展せしめたいものである。こゝにも生産學校、全村學校の意義がある。

藁細工——高學年の兒童に藁細工をなさしめる。近來跣足袋が流行つて來たが、眞に山村農業をする者には役立たないらしい。山坂を容易に登り降り出来るの草鞋草履であるから、傳來の藁作業を傳へて置きたいのである。

勿論この作業は雨天時の作業として課したいものである。

麥稈製造、麥稈細工——麥稈として細工の材料を作ること、又その麥稈を細工して見ることも出来る。

竹細工——竹は日本特有の産出品である。竹を使つての細工はいろいろと出来る。近頃手工的な作品が賣り出されて居るが、あの程度のものならば高等科の兒童でも十分出来る。又程度の低いものならば尋常科の兒童にも出来る。

著者等が日本小學校の兒童の竹細工品を世界新教育會議の展覽室に展覽した時、歐

米の教育家はその作品の精彩なるに驚いたのである。しかもこれを参考にしたいといつて寄附を申し込んで來たり、賣つてくれと盛んに申込んで來た。

柳細工——處によつては柳の細工を研究して課することも面白いことである。柳を移植してから製造まで研究することも愉快な開拓施設であらうと思ふ。大いに學校の實習地、試験場(農場)を利用すべきことである。

九、農産工業

農産工業と云ふにいふのは農産物に加工してその價值を増大する所謂副業的の工業の場合をいつてゐるのである。そして又學校が全村學校の立場に立つて實施し得る農産製造と家庭工業とをいつてゐるのである。

かゝる農産製造、家庭工業を學校にて研究し指導することは意味があることである。農村の手工科學事科の教科課程の上には十分研究の餘地がある。又課外の教育として、冬期農閑期の校外教育としても開拓の餘地は十分にある。

これがひいては家庭教育から眺めても、家族の者達が和樂團樂の間に楽しみつゝす

る作業となり、勤儉力行の美風を養ふことゝもなり、しかもそれが生産の躍進であるを思ふ時、大いに研究を要することである。

一寸考へて見ても、麴、味噌、茶、梅干、漬物、乾柿等の製造は高等科女子の家事科で實施出来ることである。高等科男子には澱粉製造、ヘチマコロン、ジャムゼリ製造、素麵製造等が出来る。

一般的に農産品の加工といふことになるとその範圍は極めて廣範圍になる。参考として加工し得るものを掲げて見ることにする。

穀菽類加工——麴類、味噌、醬油、麥芽、飴、豆腐、パン、甘酒、納豆等。

芋類加工——馬鈴薯澱粉、蒟蒻、薯飴等。

果實加工——果汁類(葡萄酒)果樹類(葡萄酒)

ジャム、ゼリー類(苺、トマト、桃、苹果)

糖漬類(苹果、梨、桃)

ソース類(トマト)

乾果類(苹果、桃蜜柑)

脱澁(柿)

野菜加工——漬物類(鹽漬、味噌漬、醤油漬、糠漬、酢漬、粕漬、甘酒漬、麴漬)
 野菜乾燥(大根、蕪菁、切干、甘藷切干)
 水煮類(グリーンピース、菜豆水煮)
 畜産物加工——乳製品(煉乳、バター)
 鶏卵加工(鶏卵粉、菓子類)
 豚肉加工(燻肉、腸詰)
 鶏魚肉加工(漬物、大和煮)
 畜皮加工(鞣皮)
 特用作物加工——嗜好品加工(製茶、煙草、香辛料)
 甘味料(製糖)
 纖維料類(紡績及製紙用纖維、麥稈真田)
 工藝料類(樟腦、除蟲菊、天然藍)
 油蠟料類(植物油石鹼、木蠟)

これは一般農家の農産加工について述べたものであるから、學校に於ては郷土的、そして學校的に考へなければならぬ。即ち郷土的に考へて、郷土開發の立場から學校が中心となつて試験の域から全校指導の方向に進むことはのぞましいことである。もつとも販賣用の農産加工とまで行かぬとしても(それが專業であらうと副業であらうとしても)せめて自家用として即ち自給自足の農産加工となるだけでも、農村の將來が自給自足を理想とする點から見れば結構なことである。

加工の實際については専門の書物にゆづることゝして、たゞ參考として、「一年間の農産加工」から加工年中行事表を採録することゝする。

月別	加工品名	参考
一—四月	福神漬 凍豆腐	鶏肉の粕漬
五月	蕨及薇水煮場詰、罐詰 アスパラガス水煮場詰、罐詰 孟宗筍水煮場詰、罐詰 甘酒の場詰、罐詰	味噌 醬油 土當歸水煮場詰、罐詰 干蕨干薇

九 月	八 月	七 月	六 月
<p>馬鈴薯澱粉 林檎シヤム ヘチマ化粧水</p>	<p>桃シヤム、奈良漬 トマト水煮燻詰、燻詰 トマトバルブ トマトケチャップ 枝豆の水煮燻詰、燻詰 干瓢 アイスクリーム</p>	<p>櫻桃の砂糖煮燻詰、燻詰 李のシラップ 梅のシラップ 桃のシラップ 桃の砂糖煮燻詰、燻詰、 杏シヤム</p>	<p>根曲筒水煮燻詰、燻詰 雑の粕漬 尊菜水煮燻詰 苺シヤム、苺シラップ、グリーン ピース</p>
<p>紫蘇實及葉の鹽漬</p>	<p>トマトマト砂糖煮燻詰、燻詰 トマトシヤム 紫蘇コーヒ 胡瓜の鹽漬</p>	<p>李シヤム及シエリ 李の砂糖煮、燻詰、燻詰 梅干 玉蜀黍水煮燻詰、燻詰</p>	<p>莢豌豆の水煮燻詰、燻詰 シチデ水煮、燻詰 菜豆の鹽漬</p>

通 年	十 二 月	十 一 月	十 月
<p>除蟲菊粉 ボマード クリーム ベルツ水 モルトコーヒ 鶏卵飯料 乳製飯料 マヨネーズソース ウスターソース 糖味噌 鯉こく 豚同 兎同 鶏肉の大和煮燻詰、燻詰</p>	<p>澤庵漬</p>	<p>菊花海苔 洋梨の砂糖煮、燻詰</p>	<p>葡萄酒 葡萄酒汁 トマトの甘酢漬 芋類の水煮燻詰、燻詰 洋梨の砂糖煮、燻詰</p>
<p>鯉及鮒の甘露煮 ベンの製法 鶏肉の粕漬 納豆</p>	<p>油の搾汁及加工</p>	<p>コロ柿、柿シヤム</p>	<p>西瓜糖 トマトの芥子漬 西瓜の皮酢漬</p>

十、農村工業

農村工業といふのは都會工業を農村へ移行させる行き方からのものと、農村自體の中に農村的な工業が発達したる行き方のものことから、農村に工業を實施せしめるものである。

前者は經營組織を變更して都會の大工業が農村めざして分散移轉を試みたり、創始企業の會社工場が進んで農村に敷地を求める結果將來したものであるから、本來からいへば農耕地を會社工場街化し、鋤鍬を捨て、新興工場に身を投ぜしめ、機械工業に於ける筋肉労働に従事せしめるところから、農村の産業經濟、機構を覆へし農村新經濟組織へと進出確立せしめんとするものである。従て農村生産教育の對象として、こゝに研究することはしばらく見合せることとする。

後者即ち農村自體の機構の中に工業を確立せしめることは、本書の問題とするところである。農産工業の方は自家用農産加工の方で農村工業といふからには、販賣用農産加工で、しかも副業よりも專業加工の方に考へたい。工業組合組織等によつて

經營改善、企業統制、事業擴充を充て活動する現はれである。

かゝる工業としては、和紙工業、度器製作（尺度製作といふことは、學校工業にても出来る。私の經驗から、勸業課の後援によつて製作認可を得て實現するまでに進めたことがある。）園藝加工業、（農産工業の組織化したるもの）製茶、部分品製作等が考へられる。

これらの工業程度ならば學校も參加して作業することが出来る。即ち工業正課として課外作業として實行出来るのである。

第四章 協同社會の原理と實際（公民教育方法）

人はいふまでもなく根本的に社會的存在をなしてゐる。そして個人の實現することも社會に於てのみなされるものであり、社會に與り盡すのも個人の義務である。自己と社會とは相即不離なるもので、社會の使命が自己の使命であり、自己の使命が社會の使命であると觀ずる。これが協同社會ではないかと思ふ。

かうした社會、即ち協同社會こそ我々の理想的な社會であると思ふ。そしてかゝる協同社會心なるものは家庭に於て父母兄弟姉妹から始まるものである。それであるから個人が愛國者なるか然らざるかは父母、友人の責任であるといはれる。

生活の雰圍氣は協同精神に充ち犠牲心に燃えなくてはならない。競争心であることよりも、公正心そして協同心でなくてはならない。又利己的であることよりも同情扶助的でなければならぬのである。

協同と同情と扶助とは現はれて和となるものである。彼の聖徳太子十七條憲法は日本の建設であり、日本思想の獨立であり、新文化の樹立である。憲法の制定、佛法の興隆、冠位の設定國史の編纂等にまで、この精神が出たものである。

この十七條綱領の大切な一つの「和」の思想こそ日本精神教育の向ふべき指針の大切なものである。

一に曰く。和を以て貴しとなし、忤ふこと無きを宗と爲す。人皆黨有り、亦達者少し。是を以て或は君、父に順はず、乍、隣、里に違ふ。然れども上和ぎ下睦びて、

事を論はんに諧ひぬるときには、則ち事理自らに通る、何事か成らざらん。

十四に曰く。君臣、百寮嫉み妬むことあること無かれ。我既に人を嫉めば人亦我を嫉む。嫉、妬の患其の極を知らず、所以に知己に勝れば則ち悦ばず、才己に優れば則ち嫉妬む。是を以て五百歳にして後乃今し賢に遇ふとも、千載にして以て一の聖を待つこと難し。其れ聖賢を得ざれば何を以てか國を治めん。

農村の現状から見て相互扶助、隣保共助精神、そして共同動作の涵養と強調とは極めて重要な精神更正の條件かと思ふ。殊に日本精神の國民生活に現はれては一層高揚を叫ばざるを得ないのである。村によつては申合せ事項の徹底しないどころか、壞れて行くところさへあり、政争絶えずために自治亂れる處あるを思ふとき協同生活への高唱を必要とする。

人の和を叫び、農村の新指標として農村社會の向ふべき第一、第二を第二編農村形態の教育理解に於て述べるのは日本精神の立場からであつた。

この心が兒童の生活場所たる學校、學級に現はれて、完全なる協同社會體にまで發

展することを計畫し、よりよき學校、學級の社會的生活をなさしめる様努力せねばならぬのである。

第一節 自治的訓練

農村の學校には正しき自治の指導訓練が大切である。今迄の様な自治指導訓練では駄目である。即ち自治會といふものはだ落してしまつてゐる。男生叫び、女生反駁するとまでは行かなくとも、甲論乙駁しつゝある自治會と銘を打つてゐる會合は幾度も拜見したことがある。

又そうでなくとも、いろ／＼と條項を並べて、兒童達が議決して「實行することに致しませう」と終る。この決議が澤山ある。會議録帳を拜見すると、同じ事項が何回決議されてゐるか知れないのに氣がつく。かくては決議會であつて、決して實踐の相談ではない。

自治會は相談であつて欲しい。そして決議は實踐すべき生活の要點で、數も少なくして一步步と着々と進んで行きたいものである。かく述べる私も、兒童の自治會の

指導訓練については苦心してゐる一人であるつもりである。そして反省して見て或る一部の人々が現在もやつてゐる様な過程を歩んだことがあるのでかくはいふのである。

農村に限つたことはないが兎に角農村に生活する者の生活として義務、責任、寛容同情、規律、秩序、共同一致、愛隣の精神生活が必要である。かゝる生活が團體的な形式の生活に於てなされるのであるから、學校自治の生活に於て訓練して行くことがよいわけである。

學校自治は絶對の自治ではない。教師の指導のもとに行はれる自治である。決して大人の自治ではない。この點も考へてかゝらねばならないのである。それかといつて教訓や小言が光きに立つのではない。自治の空氣環境の中に自治の芽を伸ばしてやるのである。相互相愛の責任連帶、共同協力による秩序規律の團體生活の實現である。團體生活は團體を作つて居る人の一人々々が、心行くばかりの喜びの活動、楽しみ、生活の實現でなくてはならないのである。

第二節 自治組織

學校に於ける私の實際を次ぎに述べることにする。學級自治ホーム、部落自治ホーム、學校自治ホームの組織をとるのである。

1、學級自治ホーム

尋四以上の各學級別に組織される。そして學級ホーム長と副ホーム長とを作る。その他、級の程度と性質、學級個性に應じて必要な組長、幹事、相談役等を置く。集會は毎週月曜日とし、必要に應じては臨時召集せられて相談をし、團體の實踐行動をして行く。

2、部落自治ホーム

全村兒童を通學區域の狀況によつて五區なり六區なりと分ける。尋四以上の兒童にして、その部落の所屬者を以つてホーム員とする。

役員は各區とも、ホーム員の選舉によつて決定し、區長一名(男)副區長(男女各一名)、組長若干名をおく。集會は隔週一回とし、各區別にこれを開き、その部落擔任

の教師は必ず臨席して指導する。一ヶ年の成績特に優良なる區は表彰する。

部落ホームの活動の殊に目覺しく活動するのは、休暇中で、特に夏季休暇中などに於ける成績は大いに推奨に値するものがあつた。

3、學校自治ホーム

これは各學級自治ホーム及部落自治ホームを統一合同したるものである。各部落ホーム員は尋四以上の兒童なるを以つて、事實上學校ホーム員は尋四以上の兒童を以つて組織されてゐることになる。

學校ホームの役員は、各學級自治ホームの役員及各部落の自治ホーム役員を以てこれに充てる。其等役員互選の上、學校自治ホーム長副ホーム長をおく。

學校自治ホーム役員會で協議せられる問題としては、一、校内の風紀、清潔、整頓等の一般のこと、二、校外の風紀、其他部落作業等に關すること、三、行事實施に關する計畫、方針、實行等に關すること、四、諸般の協同作業、會合等の計畫、實行等である。それは決して形式的なる社會自治生活の實習のみに限らない、學校内

外に於ける活動の源泉として活躍をする。

この學校自治ホームには最高學年兒童を以つて相互指導當番なるものを組織する。これは自治ホームの一つの實行機關であつて、校内の風紀、清潔、整頓から、低學年兒童の世話指導までを親切にするものである。

この機關の活動は監督監視の意味からではない。その名稱の示す如くに、其の足らざるを相互に相補ひ指導し合ふ様に出來てゐるものである。例へば低學年の世話指導の一例は、雨の日に一、二年生の登校するのを待ちうけて雨合羽を脱がせてやつたり、長靴の仕末の面倒を見てやつたりするなどほんの一例である。

4、自治ホーム活動

かゝる自治ホームの活動相を見るならば、學級、部落、相互指導當番、學校側の希望意見議案は何れも自治ホーム役員會に提案され、そこで相談議決されて、再び學級部落等に通達せられ、はじめて實行せられる様になるのである。

次ぎに四年以下の三年、二年、一年は自治會に参加しないのかといふに、自治會そのものには参加しないで、自治生活には参加する。即ち、相談會議には加はらないのは四年以下の兒童の社會的意識發達が未熟であるからである。それに引きかへ自治生活に加はることは理屈なしに實踐して行く團體構成からであるから、生活として體驗させて進めるのである。

第三節 共同的訓練

共同といふことは社會を作る上に必要條件である如くに學級、學校の生活に於て必要である。教育は協同から成るものである、協同の精神を離れて教育はないものである。これ協同は自己を他に住ませ、他を自己に宿すもので、自己一つに融合する愛の姿である。

教育は愛である。教育者と被教育者とが一つになる作用である。即ち受けんとする愛と、與へんとする愛との愛の合ふ心が結び合ふ社會である。結び合ふとは協同の姿である。この姿の作用が教育である、協同社會活動、教育的社會作用である。

この社會受與の活動は、次ぎの如くに教育事實として教室に、學校に現はれて來る

のである。

一、ホーム作業

自治ホームに於いて作業が行はれるとき、協同活動が行はれる。即ち學級ホーム作業と部落ホーム作業とがある。何れもホーム単位で、作業の目的を立て、方法を協議し、やがて協同して仕事を實演する。學校には作業カリキュラムといふのがあつて、児童はそれによつて實踐して行くのである。

二、ホーム作業の内容

ホーム生活に行はれる作業の姿は次ぎの三相からなるのである。

1、學藝作業

學級展覽會、學級發表會の計畫實施(學校學級の全員一般作品)
唱歌會、體育練習會(研究兒童選出)
生活展覽會(全員兒童成績品蒐集物)作品發表會(特殊研究兒童作文、劇、圖畫、習字)

2、生産作業(共同製作物)

時の記念日、衛生思想宣傳、防空演習思想宣傳等のポスター製作
武者人形製作、(木竹彫、土偶)セルロイド工作
部落地圖、地方模型、建築模型、理科器械製作
凧製作、紙芝居、カレンダー、グラフ類
農具製作、家具修理、學習用具
封筒作製、ブック作製

3、奉仕作業

公民新聞發行(村内及學校配布)
運動場整理、通學道路修繕、害蟲驅除、神社佛閣掃除、美化作業、交通整理
街頭奉仕(電柱、板塀、道路等の淨化作業、慈善事業花賣り、時記念日の時計合せ、慰問品募集)

軍隊及傷痍軍人慰問(直接慰問、慰問文作製)

校舎修善修理、祖祭儀式準備

第四節 學級組織

學級を一般的に定義すれば、多數兒童が共に教育せられる有機的なる結合團體であるし、教師から指導教育せられてゐる人格團體であり、決して利益のための結合團體ではないことは明瞭なことである。

この團體が、教育的なる必要のために構成せられ、愛情ある緊密の結合をなしてゐる。單に教授を共同的に受くる集團ではなく、教師の指導下に協同しての情愛社會をなし、全體としての發展を期してゐる社會であるから協同社會である。

吾々はこの協同社會を愈々この本質に則つて、發展せしめ價値を發揮させるに努めねばならぬのである。

それには兒童をして學級一員たることを意識せしめ生活體驗せしめる。學級のために學級利害を自己の利害と考へさせる。消極的には正義の念によつて、他の學友を尊

重し、自己を支配すると共に忠實に學級に奉仕せしめるのである。

又兒童相互間に於てお互の尊敬と理解とが必要である、指導者としての教師の愛に導かれ敬の心に生き尊敬と信頼の生活そのものでなくてはならない。

學級は他の學級とも相互的に協調して學校と社會とも緊密の結合をなして行くのでなくてはならぬ。空間的には學級的分團を發達的には學校全體に關係することは生活を全體共同作業の組織内に體驗せしめ、共同目的に對する興味によつて生活せしめる。これを學級の中心興味とする。かくては自殘的態度、創意的努力を要し、受けると共に人に與へ、發言と聽問、服従と指導をも喜ぶ。參與の自由意見發表の自由もあるが、責任と協働とを要することにもなり、自由性、寛容性、責任感、服従心、義務心等が養はれることにする。

第五節 學級編制の實際

學級組織上の重要問題について結論を述べておくことにする。即ち、學級編制をな

すには暦年令による場合は、出生月の近いものをもつて一團を作つて一學級宛にするのがよい。男女共學は尋常三年まではその方がよい様に思ふ。即ち四年に至つて男女別學級とする。

智能検査、學習の進歩度、學業成績検査、教育測定等の科學的方法の考慮にのみよる學級編制は、個性尊重、天賦の性能開發の點から見ての原理としては至當であるがこれは學級に單に教授を施す爲めの組織であるとのみ解しての立場にあるもので、社會人としての體驗乃至教育協同體としての組織であることも考へたいのである。

かくて私は精神薄弱兒は別とせねばならぬが、一般には優劣相混じ社會實在の姿に於いて、協同社會としての發達を念願するものである。

第六節 協同學習(協和の學習)

共同學習の生活に於ては、兒童と教師とが同じ問題について同じ作業をなし、同じ生活を同行することである。全體の人々によつて定められたる共同の問題は、共同構成であり、共同的解決の過程をとることにする。

問題の共同的構成とは兒童達が承認したる問題であつて、教師も價值を認めてやり承認したる問題であり。共同的に構成せられたる問題は、兒童全體と教師との努力乃至協力によつて解決せられる。これは各個人の解決力に依存するものであることはいふまでもないことであるが、共同といふ働である。

かゝる共同解決は多數決やさりとて教師の決定ではなくて、個人の解決案が全體の承認を得ることや、どこまでも共同で進んで研究解決して行くことに特長がある。勿論それは創意の教養ともなり、寛容心と責任感との助長ともなるものである。

以上は教師との關係についての共同であつたが、その他に分團を兒童同志が構成してなすことがある。長期間の研究に、學校以外の課外家庭での研究に、教授時の研究に於いて長短相補ひ、全體發展をすることになる。更らにそれが大單元の分枝研究に實施して其結果を纏めて一つの結果を得るなど興味があるものである。又學級學校内に於てクラブ組織として、同好の者を協同せしめて研究し作業せしめるなども有効なものである。學科別の特別學習の同攻會の如きもので、書方同攻會とか圖畫同攻會と

か、理科同攻會とかいふが如きそれである。

第七節 個別、一齊、討議學習の清算

學習の形態は如何にあるべきか。それはいふまでもなく協同社會體に於ける學習形態でなくてはならぬことはいふまでもない。それには從來からの單なる個人主義的個別學習を清算し、集團主義一齊學習を清算し、個別共同一體の學習形態を建設せねばならぬ。又智識の發展の一途を指す討議學習についても清算せねばならぬのである。

個人主義的個別學習は、個人々々によつて豫習、實行、反省なる學習と、教師の豫定、實行、反省なる指導とが行はれる。即ち學習に即しての指導がある。豫定は學習指導の發動力即ち標準進度を目標として、毎月學習豫定の決定をする。そして毎週毎日を割出す。實行は質問、讀書三昧、實驗實測、製作、沈思熟行、參考書研究、反省考査等をなすのである。

學習形式としては個別獨自活動に始終する。そして對應として個人指導即ち一人での學習が行はれる。個人的活動そして個人的人格の完成への學習形式をとるものであ

る。こゝに吾々は考へざるを得ないことになる。

一齊學習とは一人の教師が、一學級全體の兒童を一體として、學習指導して行くもので、形式の上では集合的である。兒童の心的活動は、全く個人々々、個々の活動をなし、個性、個人間の協力、携帶としては全く缺いてゐる形式であつて、一考を要せられるものである。

かくて吾々の志向するところは個別共同の統制せられたる形式であることは誰もが考へ至るところの形態、形式であることになる。即ち各自が意識的に共同して學習する意志をもつてする學習こそ全體の心が働く學習である。

討議學習なるものも清算されねばならぬ形態である。兒童各自が獨自に研究したる成績結果、意見等を持ち寄つて、發表し合ひ、意見の討議を試み、是正したり、確認したり、知識の發展を計つたりする形態である。

これは智識の確認、智識の發展としての知的材料の收得發展には優れた一つの學習形態であるから、一人一刀の研究である、一人一刀の論議である。形式から見ると

協同に見えても、精神的結合の醸成には少し遠い形式であるところに注意を要するのである。吾々は討議よりは相談形式でありたい。相談、協同學習こそそのぞましい日本の學習である。

第五章 精神的指導の理論と實際

農村に於ける精神的生活の指導は農村新文化を建設するには極めて根本的のことである。後藤文夫氏は隣保互助こそ我が日本農道の大本であるといひ、隣保互助による團結が明日の農村を作るものであるとしたのである。この隣保互助と共に農村生活者の精神的な生活を指導することこそ新らしき日本建設のために、新日本農村建設のための大道でなくて何であらうか。

かうした環境と生活を作り出す學校は如何なる精神的な生活指導をなすべきであるかが問題である。彼の村塾とか農民道場、修練道場なるものは民業技術を教へる農業學校と異なり、農場經營、實地勞働を通して農民精神の鍛練をなし、人格陶冶をなすも

のにあるもので、農民精神體驗の中堅人物養成である。

こゝにいふ精神的指導は、農民精神體驗の小學校生活指導であり、農村文化建設への精神的指導について述べるわけである。

それには具體的の施設としてはいろいろある。即ち地についた農村年中行事の生活指導、郷土文庫の經營、郷土研究そして郷土自然、文化の美化、保存、開拓といったこと、農村娛樂藝術の習練といろ／＼ある。それらについて二三述べて見ることにする。

農村年中行事

郷土即ち地についた年中行事を學校生活の中に取り入れて施設することは、その農村精神生活の機會となり、やがて其村の精神的生活を支配することになる。其の時に於ても其村の人々の精神を學校に向け、やがて全村學校への一過程でもあることとなるものであるから、その心して豫定立て、組織立て心を入れて實施して行きたいものである。

光づ全國一般共通の歴史的國民行事と社會的國民行事とを掲げて參考に資することとする。

歴史的國民行事

- 始業式
- 招魂祭
- 天長節
- 産土例祭
- 皇太神宮祭
- 七夕祭
- 盂蘭盆祭
- 秋季皇靈祭
- 教育勅語下賜記念日
- 山之神祭
- 勵學祭
- 花まつり
- 端午の節句
- 時の記念日
- 大祓式
- 國旗記念日
- 二節祭
- 戌申詔書下賜記念日
- 靖國神社祭
- 國民精神作興詔書下賜記念日
- 家庭訪問
- 招魂祭
- 海軍記念日
- 田植祭(齋田)
- 試食會
- 選獎記念式
- 乃木祭
- 神嘗祭
- 明治節
- 入退營兵報告祭
- 四方拜
- 紀元節
- 地久節
- 卒業式

- 新嘗祭
- 義士祭
- 山之神祭
- 建國祭
- 陸軍記念日
- 消防演習
- 大正天皇祭
- 節分會
- 梅節句
- 春季皇靈祭

社會的國民行事

- メートル法記念日
- 交通安全週間
- 衛生週間
- (校下物産品評會)展覽會
- 篤農家訪問
- 兒童愛護週間
- 蠅取日
- 書初會

村の郷土室、學校の郷土室

學校の郷土室は村の郷土室であつて欲しいのである。村の郷土室とは青年訓練所の

生徒、實業補習學校の生徒も、其他の村人が自分の物であるとして心にかけて蒐集して行き、通りがかりに寄つては見て行く、學校では各科の教育實際に利用して行くものであることである。かゝるものは學校の郷土室でもあるわけである。

何にも直ちに完成するといつた金をかけなくてよい。學校、村人が協力して行く、やがてはアメリカ・ロッキーマンテン附近の或る驛に近い原野にあるミュウゼアムを思はせる式の粗末ながら獨立家屋にまでの博物館を目當にして行きたいものである。

村の文化を語るもの

衣服、装身具類

食物、食器

居住居物

武器類

古今貨幣類

交通關係

生産關係

教育關係

信仰習俗關係

郷土人物、郷土文獻等

教科書にある物と限らずに、生活に關係するは勿論のこと、新らしいもの、古い物何でも集めて、整理だけはよくしておくことである。整理がよくなないと、學校で利用出来ない。又それこそ金持ちの趣味集めになつてしまふ。

青年學寮

青年學寮とは補習學校及青年訓練所生徒の集合場の意味である。學校の校舎内か或は學校の附近に建てる。何をなすのか。

青年の娛樂場にする。娛樂については出来るだけ設備をよくする。農村青年の娛樂場がないことが一番の缺點である。

青年の讀物を集める。新聞も二三種は備へる。有志の寄附、郷土出身者から寄附してもらふ。次等に立派なものにする。自由に讀書が出来るやうにする。

農民美術品、農藝科學の參考品も陳列する。そして集まる青年の實物見學に資するのである。

其他の設備としては皇太神宮を祀ること、會合の出来るやうな室を設けることである。これ等の構へについては寄附金に依つて造り備へることにする。庭が相當あつたらば、花園を設けるのもよい。

青年の當番をきめておいて掃除整理にあてるのである。

農閑期の農事指導講習場とし、一夜精神講習會場とし、青年の社交場とし、娛樂場とする。又平素の月でも地方篤農家、有志家の來場を願つて講究をする。寮長は村の小學校長で名譽會長は村長とする。賛助員には有力者全部を當て、賛助金として、米の收穫期に米でもらふことにする。

第六章 國民作法の原理と實際(形式實踐)

形式實踐とは國民作法といふことである。國民の生活形式を踏むことは國民さては民族の精神を生むところの形式生活である。この形式生活をおろそかにしたといふわけではないかも知れぬが、餘り論議せられなかつたことだけは言へる。

論議せられた人々の多くの意見は、國民的さては民族的の立場からのものは少なかつた様に思ふ。即ち多くの人々は、外に表はす形式、本性の發露として、内なる精神の清淨、美化を考へたり、人間感情の美的純化、相互和氣の交際として考へたりしたものが多くあつたのである。

かく自己品位の尊重、至誠の表現としての形式作法を習練することは結構なことであるが、更らに私にかゝる個人的立場、社會的立場からの考からでなくて、日本國民日本民族の品位の習練といふことから考へたいのである。

日本國民乃至は日本民族の生活し來たつた形式の心即ち禮の生活訓育は愛敬、互讓親和、快活、正直、忠實の精神から生れたものであると信ずる。この心から生れるところの形式作法即禮こそ學校教育の作法であり國民作法であるべきである。

勿論國民生活の形式作法は、個人の徳の現はれであり意志實踐であることはいふまでもないが、更らに國民民族性格の現はれ意思の實踐を考へるものである。

指導方面

指導方面には精神的方面と形式的方面とがあることを忘れてはならぬ。精神的方面とは兒童それ自身に價値感受力と價値創造力とを賦有してゐるものであるから、國民生活の中に正しく生活し得るものであることを忘れてはならぬことである。この點から老へれば正しき國民社會生活の中に生活せしめることによつて、正しき國民人民族

人たらしめることが出来るわけである。

形式的方面とは形式をふむことは心を生むものであり、児童は形式の習練に於て、早く練れ正しく練れ、習慣として體得し易いといふこと、その習慣は生涯に及んで體得して居るといふことは勿論のことであるが、更らに、形式の奥義の暗示、教師、指導者の感化と示範との感受、交友相互の影響とを受け易いといふことから、指導と示範とにあつて、これが利用と着眼とを必要とすることである。

以上の二方面から老へて精神の感得と形式の習練とを教育着眼として指導して行くべきである。

徹底方法

第一日本國民作法を制定しておくことが必要である。

第二には日本國民作法は所謂國民作法であるから、學年相當と加して各學年にする必要はない。下級學年、上級學年位に分別してあればよい。

第三作法要目には題目と、作法要領と指導上の注意だけを説述したい。

指導の實際にあつては、作法についての理論等の説明は餘り必要としない。日本國民はかくすべきであるとして、その形式さへ實踐して行けばよい。指導者たる教師は依つて來たれる理由とかその形式についての理論と、すべての理屈は承知して居るべきであるが、児童にはその説明の必要はない。

私は歐米各國民の國民的、民族的な生活形式乃至生活禮式、作法を見ての上から、かくはいふのである。即ち國民作法たるものは誰もが、實踐すべきであつて、説明や理論などを必要としない、形と心とを一致させての日本作法の實踐でよいと信ずるものである。

そこで、詳細なる學年配當とか、教科書との連絡からどうの等といふを要しない。國民生活であるからである。修身は實踐道德であるべきであるから、修身こそ國民生活に立たなくてはならない。修身を道德の學問と老へられることから連絡案などが唱へられることになる。勿論連絡が悪いといふのではない。連絡は大いになすべきであることを思ふからかくは云ふのである。

又下級上級位の配當で實踐指導して行くべきで、かくすべしで實踐を本體にして行くのである。大國民たる少國民の教育であるから大國民の品格表現態度の育成として實踐によつて身につけて行くのである。他教科との連絡とか、反省記録とか、作法日案による指導とか言つてゐる様では駄目である。その事が實踐出来るまでどしどしと訓練して行かねばならぬのである。

實際教育にあつては、示範して注意をあたへ、實習、訓練して行く、以下實習、實習でよいのである。批判などは必要ではない。

日本國民作法例

私は大國民としての日本國民の作法についての、私の主張を明かにするために、次に、作法例を掲げて見ようと思ふ。

外國人の中に入つて、乃至は歐米人の上に立つて行く日本國民の品位を十分ならしめる立場に立つて居るつもりである。この位のことから日常生活として、即ち心を用ふるのではなくて、全くの平常として實踐して行けるのではなくては困ると思はれることを

たものである。それであるから説明など要しない。

どうも日本の吾々の學校では、尋常一年から卒業學年まで、廊下をはしるな、一堂に會しては静かにしろと、いつたことが實踐出来ないで卒業して、國民生活に入つて行く。誠に残念である。これでは日本國民の品位に關するのである。そんなことで、家庭との連絡をとつて作法を徹底させるなどを考へたところで、水の沫を掴まんとするに似てゐる位のことである。根元は學校の中にあるのである。

實際教育家が歐米人に接して生活したらば、誰でもそうした感を持つであらうと、私は信ずるものである。かうした私と同じ感を抱かれる熱心家の「我の日本國民作法例」を訂正して下さい、即ち研究していただくこと切に希望する者である。

一、朝

挨拶

齒磨き、顔洗ひ

神佛拜禮

服装整頓、手拭、鼻紙を必ず忘れぬこと

ゆつくりかんで喰べる(早飯は禁物)

二、學校

挨拶(外出、歸宅)

下駄、靴の整頓、拭ふこと 姿勢正しく

仕事(學業、作業)の態度 左側通行、廊下の無駄口なく

集合場所の禮儀(正しく、早く、無駄口なく)

食事前手洗ひ

三、夜

規律ある生活(起寢床、時間、挨拶)

勉 學

四、一般動作

1、道路

左側通行、交通路守則

2、案内

入室の挨拶

3、敬意

慶弔、儀式の場合の禮(言葉、挨拶、服裝)

4、物品

丁寧、心を入れて授受

貸借を正確に、

5、對公衆

切符賣場、改札口の順序

車内の規則と禮儀

隣人との禮儀(互讓、ラヂオ、蓄音器高音)

圖書館の守則(靜肅、圖書備品尊重)

公園(草木、道路、ベンチ、運動用具尊重)

共同便所(紙屑、落書、汚損)

浴場(清潔、高聲、他人の迷惑)

6、國家日

國旗掲揚、——國旗掲揚方法を正しく

日本精神の新農村教育

國家日の清潔整頓

國旗掲揚の禮儀

第五編 各教科教育の方法

第一章	教科の本質及目的
第二章	各教科教育の方向
第三章	修身教育
第四章	國語教育
第五章	國史教育
第六章	地理教育
第七章	算術教育
第八章	理科教育
第九章	圖畫教育
第十章	手工教育
第十一章	體操教育

第一章 教科の本質及目的

學校に於て教授する教材を、その内容によつて類似してゐるものを集めて差異をもつて、分ける。その分けたものを教科といつてゐるのである。

教科を選定することは、客觀的要求と主觀的要求とによつて決定せられる。客觀的要求とは會社的に發達して來た歴史的社會的文化材であつて、社會的生活をするにしなければならぬ精神的財産のことであり、主觀的要求とは兒童の心身の發達、要求といつた兒童からの要求である。

かく教科の數、教科内の教材範圍は兒童個人の發達から見ても、亦國家の將來の立場から考へても大切なるものであることが知られる。それ故多くの國々では、大低教材の範圍と、教科の種類とが法律で定められてある。日本に於ても社會的要求と個人的要求とから教材選擇の標準を規定してある。即ち

社會的要求

道德教育及國民教育の基礎を作るに必要たるもの
生活に必須なる普通の知識技能を得しめるに必要たるもの

個人的要求（兒童の心身の發達を助くるに必要なもの）

かゝる二大標準によつて選擇せられたる材料は多方的であり、各種の知識技能を包含してゐるので、取扱ひ上即ち實際教授に於ては、その内容より類別してある。

日本に於ては教材の種類と教材の範圍とが定められてあるから、教科日の數をどうするか即ち多くするか、現在より多くするか、それとも讀み、書き算盤の如くに少なくするか等との研究は、實際にあつては必要ない様でもあるが、教育の本質を考へる上からは大切な問題である。

それから現在の定められたる教師の分類即ち修身、國語、算術、國史、地理、理科、唱歌、體操、裁縫、手工、農業、商業、圖畫、外國語の如き、更らに教材の範圍内に於ての選擇、選定に至つて、日本の現代そして將來、更らに人生の全面、精神全體に向つての上から、教科を分類して見ることに必要に私は立つて居るわけである。

即ち日本精神の立場にあつて、明日の新農村教育を樹立するものであるから、その精神内容に立つて教科を分類して行くことにする。又分類の向ふところに即して教材の選擇をなして行くのが正しいのである。

分類はどうなる。大別して精神科學教科、數理教科、實業教科、體操科の四つとする。精神科學教科として教材の選擇せられるものは、修身、國語。國史、地理、唱歌であり、數理教材として教材の選擇せられるのは、算術、理科である。實業教材としては、英語、家事、裁縫、圖畫、手工、工業、商業、農業であり、體操科は體操、遊戯、競技である。

精神科學教科は、精神的學術に關し、情意の陶冶が主となる。數理教科は智的陶冶が主となり、基礎的陶冶に關するものである。實業教科は實業的學術にも關するが、主とするところは實習、形式陶冶である。體操科も實習陶冶が主となる。

かくはいふも、情意陶冶、智的陶冶とても他の一方陶冶効果が相當に著しいものであることを忘れて、狭い立場にて主張することをつゝしまねばならぬ。實業教科、體

操科は實習、形式陶冶にのみ限つてはならぬ。情意、智的陶冶の効果もあるものである。

精神科學教科は日本精神教育に於ては中心教科として尊重し、教材の選擇に於ても精神教育に關する材料である。數理教科は日本的、日本精神的學術に拘泥せずして、形式的陶冷につとめ、且つは一般的材料による陶冶でなくてはならぬ。實業教科は實習を主とするも、形式實質共に一方に偏せずして實習を主としての教材と方法でなくてはならぬのである。

第二章 各教科教育の方向

第一には全體觀に立つての教科課程を再構成することが必要である。日本精神の體現者を養成するのであるから、日本人教育の點からの出發でなくてはならぬ。その具體的、全體的の立場から出發しての各教科に分科して考へねばならぬのである。

即ち全體觀に立つて關聯する課程であることになり、現在の分科觀念にとらはれたる如きものでなくなる。しかし日本ではカリキュラムが、國家的に小學校令に定まつて居り、それに國定教科書があり、具體案が出來てゐるので、全體觀に立つてのカリキュラム再構成には困るのである。

しかし教育の研究は進み、世界の舞臺に立つての新日本教育を考察して見て、舊によつての教科課程では満足出來ない。ところが教育の研究は、教育の核心にふれて益々新原理にそして新方法が考へられて行く。日本精神に立つての新農村教育の考究もその一つである。

私が全體觀に立つての教科課程といふのは、教科課程は人類が體驗しつゝある總體系を含蓄する文化財を教化のために組織したる案であるから、日本人教育の教科課程は人類體驗をとして日本人體驗によつて改善進歩せられて行かねばならぬのである。ところが、過去のまゝ、舊のまゝによつて行くことまでは行かなくとも、少なくとも進歩に伴はないことは教育の立場からは困ることである。

日本の目ざす、新日本の進むべき旗印しに即して行くこと、それが關聯を持つての

分科とし、教育實際にあつても關聯作用を有することが全體觀に立つものである。教材の選擇配列に於て、教科の本質見方に於て、方法に於ける全體的取扱、訓練的習練の方法、勞作的方法を取るべきことを必要とするのである。

第二には精神文化を中心とすることを立前とするのであるから、精神科學的教科、即ち道德(修身)、國語、國史の教科、教材を尊重して行かなければならぬ。かく精神科學的教科を尊重することが日本教育國民教育本道であるのである。

吾々は精選せられたる精神的教材を必要とする。現在の教材についてかゝる立場から今一度吟味して見たい。正しき日本語の通用を計り、日本語化せられたる外國語も使用してよい。漢字の整理も内容の徹底の上からは現在よりも必要である。整理せられる以上は、其の漢字の徹底を考へなければならぬ。

國史教育に於てはその日本文化精神の徹底に一層の努力工夫を要する。教師が日本道德に對する信念を持ち兒童に確認を與へその實踐についても一層の習練を必要とすることは大切なることである。

日本精神教科は一人の教師の人格を中心として、教育に努めたい。そこにも立派な教師を必要とする。やつぱり教師問題が中心になる。

第三には外國文化、物質文化は勿論のこと、精神文化でも、日本文化の生々發展に價値あると思ふものは取つてもつて、その消化に努めることも必要である。日本の地に即き、日本文化を育みゆく糧となるものならば一向に差支へない。

日本化された言葉はその儘使用して行く、外國文化の内容を見て我れを進めるものならば、決して排斥してはならぬのである。日本は發展する日本國であり、發展性を自體に持つ國であるからである。

これは日本化の獨自性を自覺せしめるのにもよい暗示をあたへるものであつて、内容づけられて行くことからのみではない。

第四には教育を實生活と交渉を多くし所謂實生活化して行くことである。各科教育の目標は現實的、農村に即かしめることから出發する。學校機關はより多く農村化し現實的、社會的機關の施設をする。

教育素材、資料は實例、具體に求める。即ち物質文化の學習に於て具體と直觀に基づくことを必要とし、精神文化取材に於ても實例と具體に求めて行くことによつて目的は達せられるのである。

目的が現實的であるとき、方法も自然現實的でなくてはならぬ。地方社會中心に實際的に立たねばならぬので、兒童性を考慮し、社會的に學習さして行く。

即ち郷土材を材料とする。一般材料を郷土材に結びつける。郷土生活、郷土行事を取入れて學習とする。土に働きかけて生産學習をする。概念の學習をさける。教具(學習具)と設備の充實をはかる。教具(學習具)は教師の工夫製作を主とし、設備は文化の應用と郷土環境を取入れてなすことに主眼をおくことである。

第三章 修身教育

修身教育の向ふところは小學校の教授要旨に示されてある。即ち「修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キテ兒童ノ徳性ヲ涵養シ道德ノ實踐ヲ指導スルヲ以テ要旨トス」

と。即ち要は徳性の涵養と實踐の指導である。その徳性の涵養は行爲に關することであるから、結局は實踐指導を以て教育の中心とすることになるのである。

實踐の核心は意志である。その意志に參與するものは知見であり、感情である。この三者が揮一的に共働して道德實踐が行はれるものである。

第一教育者は日本の理想に生きる精神體驗者でなくてはならない。それが第一要件である。日本の教育者それ自身が、日本の理想に生きる精神生活者でなくてはならぬのである。こゝにはじめて修身教育が出来るものである。

それ故に修身教育者は日本精神を體得し、信念をもつて日本兒童の人格陶冶にあたらねばならぬ。「師表タルモノノ徳化ニ俟ツ」との御聖旨を忘れてはならぬのである。一體教育者が日本精神に沈潜して居らないために、勅語詔書の理解、説明については確固たる信念を深く持てない。ために内容をして實踐への徳性涵養も不十分である。

第二に日本立場に立つものは、教育の核心から考へては、子供の生活に立たしめた。兒童の生活環境から材料をとつたり、生活に交渉せしめる兒童の生活として道德

現象を取扱つて行くのでなければならぬが、その方法として、自發的活動によるべしとする。そのため活動を主として活動にとらはれてはならぬ。児童の生活から生活を導いて價值生活へ導くのでなければならぬ、たゞ児童の生活を擴大して行くだけであつてならぬ。

その點はなか／＼難かしい。即ち児童の生活内容を豊富にしなければならぬと共に自主的道德の確立へと導くものであるからである。自主的道德の確立とは價值への止揚をする導きである。

第三に日本精神教育に於ては、精神を生かして行くことである。即ち日本に於ては忠に生きることである。その生きさせることは正しく實踐して行くこと、求道して行くことの生活指導である。

精神を生かすことは道に生きること、守り踐むべき徳であるとして導くべきで、決して、それを踐むことによつて立身出生するとか、何等かの代價が與へられると教へ導いてはならない。それでは如何にも功利主義的立場の教育になるもので、その精

神にもとることになる。

第四には修身は全體生活による生活にまでの指導でなくてはならぬ。道德概念の注入は生活力とはならない。記憶の學習、智識の學習となるのである。

それには生活としての問題をとる。具體問題をとるそして國家生活、社會生活を考へて指導して行く。常に實行生活を反省せしめる。又實行の模範を與へる。實行の模範なきものは止揚の導きとしては少し程遠いことになる。その模範は児童生活と社會環境から考へられ、又接近して居らねばならぬものである。かゝる過程の上に實踐がなければならぬ。

修身の自由題學習は、個人修身の學習であり、共同學習は共同研究であり、協同指導を受ける學習形式である。前者の形式にては自己の問題を教師に提出して個人指導を行ふものである。個人問題は、その當人を發表せずして、學級の問題とすることもある。

第四には徳目の羅列でないことが必要である。徳目を中心とするものは學習に於て

も、徳目を教へることになる。どうしてもそれでは生活の欲求に一致しなかつたり具體と事實との實踐問題が十分に行かない傾向があるものである。

若し徳目を中心にして行くとすれば、事實具體の中に輝く徳目を見ることそれを摘出して見る。即ち児童生活と社會環境との中に徳目を理解せしめる様に指導して行かなければならぬ。

それに、その徳目の説明には中心徳目と關聯徳目との内面的構造に注意して説明し更らに生活に交渉を持たせ、實踐せしめる様に指導して行くことが必要である。

第五には方法としての勞作體驗方法を考へたいものである。反省も直觀的にする、例話も直觀的にする。生活の實際に關係づけて想像せしめる。實感を抱く説話でなくてはならぬ。

實行は苦難に當らせること。苦行としての實行でなくてはならぬ。實行の習練をする。即ち實行週間の如きものを施設する。實行を記録して行く。その反省をさせる。

児童には實際の仕事させる。家庭の仕事に働かしめる。學校でも働かせる。農園

實習場、作業場、一體作業、何でも作業をあたへて行かさねば人間は作れない。時代も働く人間を認めて來た。作業によつて、教師と接する、自治も行へ得、自然に交渉し、情操も練られ、自分の腹を體驗する。そして人を練ることが出来る。

尋二修身科指導案

一、學級兒童觀

1、本科學習に對する、兒童の稟賦は、夫々具有せらるゝ如く、思惟されるが、環境の道德生活不完全より來る情意不安定者(性格不良兒)と見做さるるもの數名を見る。之等二、三の兒童に對しては、その環境の淨化を必要とする。

2、兒童の大多數は、正常なる歩みをなせるも、よりよき道德者たらしめんため、勇氣。節制、忍耐、それ等の方向に向つて共に邁進したい。

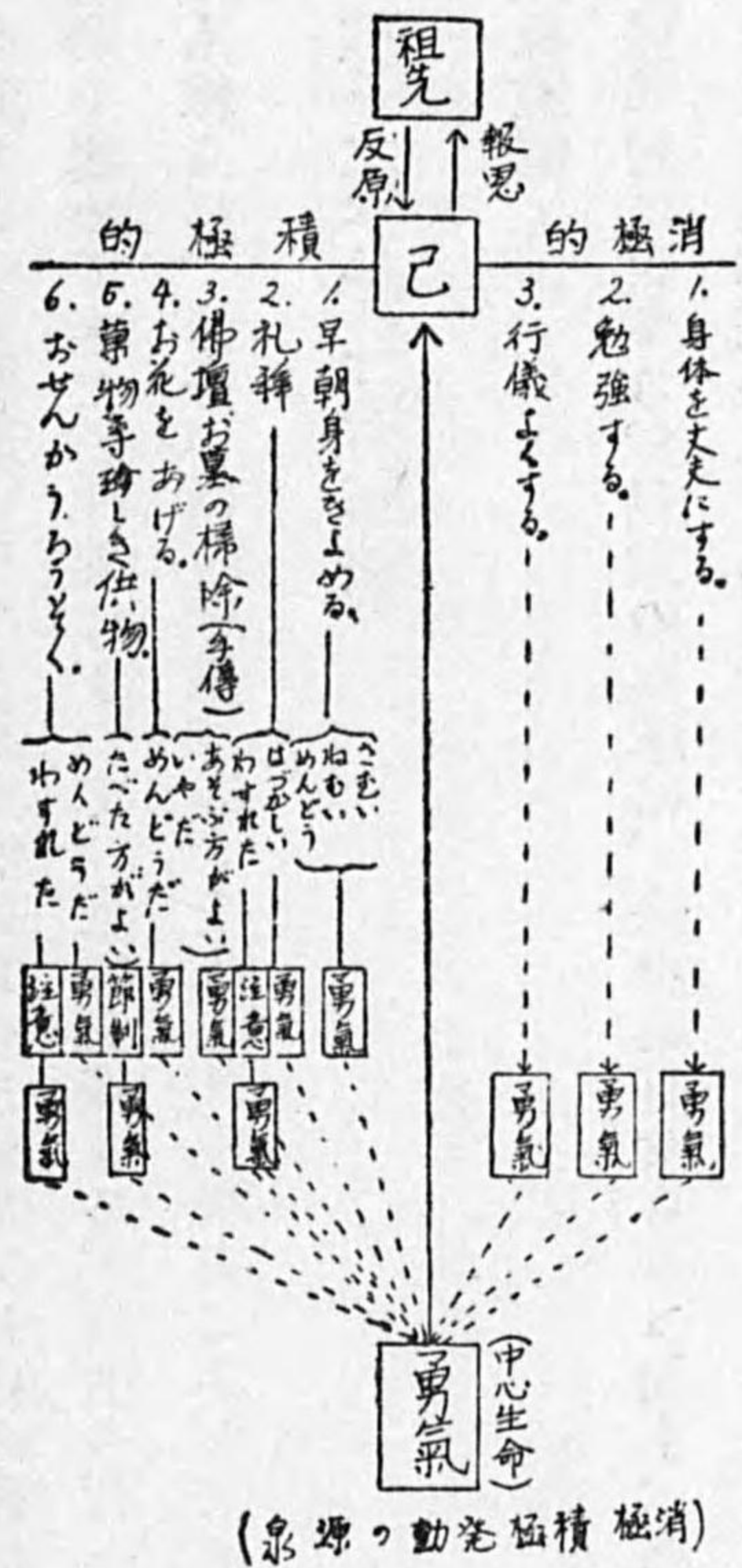
二、教材及目的觀

1、教材、ソセンヲタツトベ

2、教材の地位使命

本教材は本學年の全教材中に於ける唯一の家族的徳目(尊祖)である。従つて尊祖の情を養ふことは、家族的國家成立に於ける我が國兒童に對して重大なる使命である。

2、教材の構造と中心使命



4、右に依り尊祖(報恩反原による)の情を養ふと共に、それが實踐に當りて源泉となるべき勇氣の鼓吹湧出に勉むる事を忘れてはならぬ。

三、指導計畫

1、教材構造の郷土化

私。の。な。く。な。ら。れ。た。お。ぢ。い。さ。ん。、私。の。お。家。の。祖。先。、私。の。か。ら。だ。、私。の。お。行。儀。、私。の。家。の。佛。様。、校。庭。の。二。宮。光。生。、校。庭。の。奉。安。所。、新。田。神。社。、稻。毛。神。社。、等。兒。童。の。直。接。經。験。の。生。き。た。世。界。に。本。教。材。の。具。體。的。、直。觀。的。綜。合。的。な。姿。を。見。つ。け。る。七。五。三。の。お。宮。ま。り。、大。師。様。へ。の。遠。足。、山。王。様。の。夏。祭。、お。ぢ。い。さ。ん。の。法。事。等。兒。童。の。經。験。せ。る。事。實。を。出。發。點。と。し、兒。童。の。心。意。横。造。の。中。に。本。教。材。を。活。躍。せ。し。む。

2、教材構造の生活化

私は思ふ。教授の遊戲化も、作業化もそれは兒童の個性の開發陶冶に外ならぬ。従つてその指導も個性の指導でなければならぬ。それはとりもなほさず人間の指導である。

例話中の人物

よし子
 身體丈夫 勉強する 1、積極的方面指導
 行儀良し 2、なか造、めそ吉、わる子等の指導者(社會的)
 勇氣がある

なか造
 身體丈夫 勉強する(中) 1、積極的方面への指導
 行儀良し(中) 2、消極的方面への指導(第二次的)
 勇氣が乏しい

めそ子
 身體 弱い 1、消極的方面への指導

わる子
 身體 丈夫 勉強しない 1、消極的方面への指導
 行儀 悪し 2、積極的方面への指導
 勇氣なし

3、時間の區分

第一時

- 1、何故祖先を尊ばねばならぬか。
- 2、稻毛はる女の話
- 3、諸子は如何にして尊ぶか。

第二時(本時)

四、本時指導過程

- 1、どうすれば祖先を尊ぶことが出来たか。
- 2、それが出来得ないのは何故か。
- 3、それなら如何なる心がけが必要か。
- 4、例話「お山のぼり」
- 5、それが出来ないのはどんな時か。
- 6、眞の尊祖とは

五、指導資料

- 1、尋二修身教科體系圖
- 2、例話用繪圖

六、備考

1、「教材の構造と中心使命」に於て用ひし、消極的は本教材を扱ふに副次的なることより命名せしものである。

2、例話に用ふる人物と我が級兒童(道德生活より見たる)との大觀的關係

よし子(二〇名位)

なか子(三五名位)

めそ子(二名位)

わる子(七名位)

(土方惠治)

第四章 國語教育

こゝで國語教育といふのは、讀方といはれる所謂讀書教育のことである。一體國語科といふ部門には讀む以外に、綴る、書く、聽くの仕事が含まれてゐて、各々本質を持つて居るものであることはいふまでもないことである。

さて國語教育、讀方教育は言語教育といふ基調の上に立ちこれを根底的、究抽的な目標として行かねばならぬのである。國語が文學の生れる以前から存在し、音聲に依る國語即ち言語といふものを根源的な姿態としてゐることに因るのである。

言語教育に於ける言語は現代的なる生きた言語でなくてはならぬ。日本精神は生々發展して止まぬ心であり、國語が日本精神の表現である以上、現代に生きてゐる言語日本國民の心に鼓動しつゝある言語でなくてはならぬのである。

かゝる生きた國語、即ち日本精神の表現である現代の生きた國語に熟達、洗練せしめることが日本精神の體得となるのである。かくて現代言語の陶冶が國語教育の本質

である。

ことだまのさちあふ國の言語は日本の誇りであるから、日本の國語、言葉についての憧れ、誇りを持たなければならぬ。かく日本精神を體得せんとせば國語に習熟しなければならぬ。日本精神の生々發展に伴つて、その時代の國語がよく表現せられて來たのを考へても、古語によつての國語教育ではなくて、現代に生きた言語教育が本質であることが知られる。

文字、文章は言葉の表記されたるものであるから、國民としての言葉を誤りなく使用し得るためにこれが教育は大切なることであることは、改めていふまでもないことであるが、第一に注視すべきではない。即ち言葉に次いで來るべきものであると思ふ。文字、文章の表記なくして日本精神に生きてゐる者が現代にもあり、過去の日本精神を作つて來た者もあつた。これは言語によつて體得し、創造して來たのであつた。言語によつて日本人、私の精神を外國人、彼等に傳へたことから考へられる。

教授要旨——國語ト普通ノ言語日常須知ノ文字又文章ヲ知ラシメ、正確ニ思想ヲ表

彰スル能ヲ養ヒ、兼テ知徳ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス

言語教育といふ中に、文字、文章も入れて考へられるが從來の國語教育論者の中には、文字、文章の方面のみに力を注いだものもあつた。それではいけない。即ち所謂形式主義に傾いてはいけないのである。

言語教育としての發音、アクセント、正しき標準語の指導、豊富なる語彙の習得、さては話方、聽方の訓練とすべては實行、體驗の方法によらねばならぬことはいふまでもない。

それから言語教育に於ける文章の學習は勞作體驗の方法によらねばならぬ。それは読み重視の方法であり、「讀書百遍意自通」の日本的なる實行體驗の方法である。かくして文章に直接せしめ、努力實行によつて生命の把握をなさしめる。

日本の方法は實行、努力の方法である。實行的の努力、自學の徹底遂行である。

尋二 國語作業指導案

一、作業材 平假名カード製作々業

平假名カードは四月以降既に三十枚出来ました。此の時間は「ま」の字の個人カードを持ち寄つて各組毎に「ま」の字の大カードを作る豫定になつてゐます。

二、作業の目的

低學年の國語教育の目的はいくつもありませうが、語彙の擴充進展を圖るといふことは其の内でもかなり重要なことに屬すると思ひます。從來低學年國語教育で兎角文字の読み書きといふ事にのみ力を注いで、此の方面の仕事をかなりおろそかにしてゐるのではないかと思ひます。

兒童が 學當初に於て既に數千の語彙を有することから考へれば、文字の征服といふことは先づ第一に考へねばならぬことでありますが、たゞそれだけに終始してゐたのでは、子供等は何時まで同一圓内でかたくなつてゐるより外はないでせう。

それではあまり可哀相です。子供等の生長を圖る教育、子供等の生活を擴げてやる教育ではもつと圓を擴げてやらねばなりません。國語で申しますと語彙をふやしてやることに當りませう。

私の平假各カード作製作業のねらひどころは先づ此の語彙の擴充をはかるといふことにあります。

低學年兒童の生活相の一として擧げ得るものに自己主義といふのがあります。何でも自分さへよければ他人はどうでもよいといふのが彼等の特質です。これは共同生活を目標とする學校生活乃至社會生活中から驅逐せねばならないものです。その爲めには共同作業を多く取り入れるに越したことはありません。

分團的なカード作業は共同的な學習作業の訓練をする好機であると信じてゐます。尙副次的なものを擧げて見ますと

平假名の使用に馴れさせること。

書方練習となること。

等となりませう。

三、対象たる児童

五十九名の児童を八組に分けてあります。組には組副長と組長とがおいてあります。そして國語にでも算術にでも組単位の學習や作業をよくやらせます。併し机の配置は平常では分團的な配置によつては居りません。

子供等は組毎の學習や作業を仲よくやつて居ります。時々小さな紛争がないではありませんが、それあるが爲に又一層の親睦を増してゐます。

本學期の主目的である平假名文字の取得は、既に第一學年に於て大體出來て居りましたので、其の方面に就ては割合に樂で、讀み書きも比較的よく出來る様です。

それで平假各を覺えるといふ勞が少なかつたので其の代り平易な文字には振り漢字をさせて居ります。

假名カードの作製は時々課外にもやらせて來ました。

四、準備

1、個人用小カード

これは次の圖の様なものを謄寫して與へます。即ち表には繪畫と其の名稱とを書きます。繪はなるべく兒童の生活圏内にあるもので、殊更に説明を要しないものから採ります。繪の側に書かれる名稱は時に□□□で與へてそれに名稱を書き込ませることもありすが、ふじの山、ふじの花などの様に、字音の誤りを來たしやういものは必ず文字で與へることにしてゐます。

次に何故に此のカードに繪を要するかについて一言しなければなりません。

一體低學年の子供には何をおいても具體的な事實を與へなければなりません。

「ま」といふ片假名カードにしても、單に「ま」の一字を與へただけでは餘りに生活と關聯がない、無意義なことです。そこで生活と交渉づけるために、繪によつて事實を與へるのです。單なる「ま」といふ生活はなくとも「まり」といふ生活はあります。つまり無意義から意義を生ませ、生活に甦らせるためにです。理想的には色刷りにでもして與へられたらと思ひます。

尙繪を入れることは無味乾燥な文字だけのカードにうるほひをつけることに多大の効果があると思ひます。

裏は圖にある様にすることを理想に近いものと考へてゐますが、膽寫刷りではきたなくなるし、さうかと言つて印刷する程費用の餘裕を持ちませんので、今は白

紙のまゝで使用させてゐま

す。これになるべく澤山の

語彙を書かせる様にしま

す。

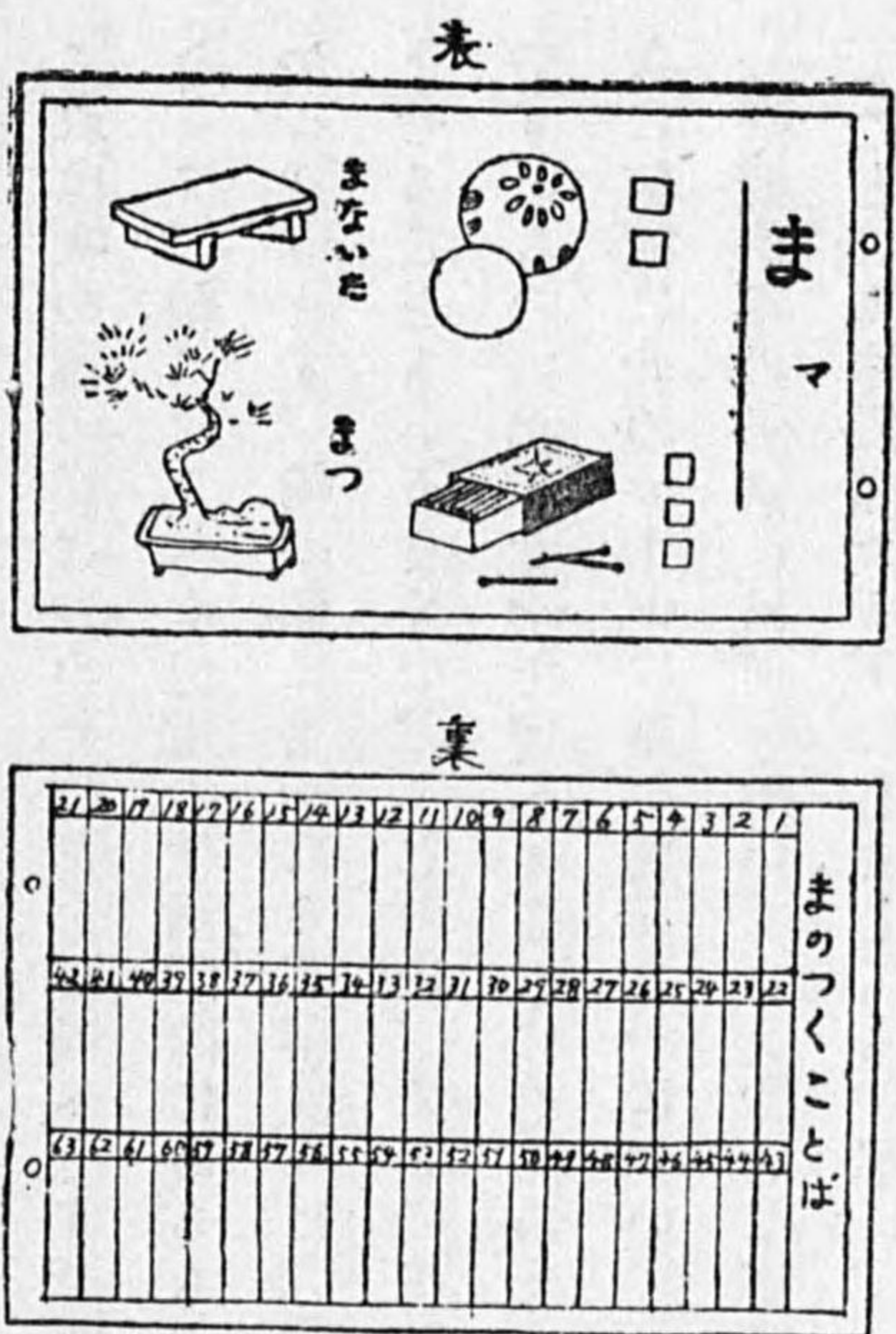
2、組用大カード

これは個人用小カードを擴

大した様なもので半紙版よ

り少々大きめの厚い模造紙

を使つてゐます。参考の爲



に圖を入れておきませう。

五、指導計畫

數多いカードの作製を悉く學校内での作業にすることは到底不可能なことですから

個人用カード作製……家庭作業

組用大カード作製……學級内作業

としてゐます。

A、家庭作業

1、前日小カードを配布します。

2、カードの表の文字、まり、まつ、まつち……などを讀ませます。

3、繪に彩色させます。

4、裏に「ま」のつくことばを記入させます。これが最も大切な仕事です。

先づ最初は獨自作業をやります。つまり「ま」のつくことばで自分が知つてゐるのを全部書きます。思ひ出したもの、考へたもの、一つでも多く書きます。そして

どうしてももうないといふときに、お父さんお母さん、お兄さんお姉さんの應援を求めます。さうして家中での共導學習が行はれます。うつかりしてゐて思ひつかなかつたことは、全然未知のことばなどがそれからそれへ出て來ます。子供等は夢中になつてそれをカードへ書き入れます。

かうして子供等はづん／＼語彙をふやして行きます。こゝでくれ／＼も注意しなければならぬことは、未知の言葉に打つかつたとき、それを漫然と安價に受け入れないことです。その語の意義内容が十分理解されるまではカードへも記入せず何回も執拗に問ひかへして其の語の意味をはつきり把握させることです。かうすることによつてのみ語彙がふえてゆくのです。

文字は硬筆書方でも書くつもりでいていねいに書く様にします。

B、學級作業(本時)

家庭作業によつて作製したカードを各自持ち寄つて組毎に大カード一枚づつを作る作業(詳細は次の項をごらん下さい。)

六、本時に於ける作業相

1、机を作業に都合のよい様に考案配置します。こんなことも低學年では作業といつて差支へないでせう。

2、家庭作業の結果を披露して相互批評が行はれます。簡單にです。私も一巡して作業状況を瞥見します

此の相互批評と教師の一瞥とで子供等は或る報酬を與へられた様な氣がします。

3、大カードを準備します。繪の彩色などについて比較したり意見の交換をしたりします。

4、表の文字の讀方練習をもします。

5、カードの表へ「ま」の字のつく言葉を記入します。

組の者が順番に言ひます。それを組長がカードへ記入して行きます。順にカードを廻して各自で記入しては次へ廻してやる方法もありますが、今日は前者によります。

他の言ふのをよくきいてゐて、自分のカードにないものは書き足します。カードに餘裕のない時にはノートに書きます。

又未知の言葉に出あつた時は、心ゆくまで研究してそれでも合點がゆかぬ時は教師に相談します。

「先生、まんげつといふのがありますか。」

「ありますよ。お月さんはまるくなつたりほそくなつたりしますね。まんげつといふのはそのまんまるのときのことをいふのです。」

「先生マナーといふのはお金のことですか。」

「さうです。」

かうして未知の言葉を相互に征服し合つて國語の力をづんづんのばしてゆきます。

6、書き終つた組は大カードの讀方練習をします。

7、それが出来たら整理して提出します。

8、机の配置を舊に復して作業を終ります。

9、若し時間に餘裕があれば作業された大カードに就いての誤を訂正したり、比較的未知な言葉についての發表や取扱ひをします。

10、今子供等が記入するであらうことばを想定して擧げて見れば

- | | | | |
|----------|----------|----------|---------|
| 一、マーク | ニ、マーケット | 三、マージャン | 四、まいあさ |
| 五、まいにち | 六、まいばん | 七、マイクロホン | |
| 八、まいしう | 九、まいど | 一〇、まゐつた | 一一、まへおき |
| 一二、まへかけ | 一三、まへがしら | 一四、まへがみ | 一五、まへだれ |
| 一六、まへばらひ | 一七、まがいもの | 一八、まがほ | 一九、まがき |
| 二〇、マガジン | 二一、まかす | 二二、まかす | 二三、まかない |
| 二四、まき | 二五、まきゑ | 二六、まきがみ | 二七、まきがり |
| 二八、まきずし | 二九、まきつけ | 三〇、まきば | 三一、まきもの |
| 三二、まきは | 三三、まく | 三四、まくあひ | 三五、まぐち |

- 三六、まくらへ 三七、まくら
- 四〇、まくはうり 四一、まげ
- 四四、まご 四五、まごい
- 四八、まさかり 四九、まさめ
- 五三、まじめ 五三、まじゆつ
- 五六、マスク 五七、マスト
- 六〇、またがし 六一、まち
- 六四、まちどほ 六五、まちばり
- 六九、まつ(松) 六九、まつ(待)
- 七三、まつかざり 七三、まつさかり
- 七六、まつくろ 七六、まつか
- 八〇、まつげ 八二、マツサージ
- 八四、まつば 八五、まつむし
- 三八、まくらもと 三九、まぐろ
- 四二、まげをしみ 四三、まげもの
- 四六、まごころ 四七、まごむすめ
- 五〇、まさゆめ 五一、まじない
- 五四、ます(楯) 五五、ます(鱈)
- 五八、また(又) 五九、また(股)
- 六三、まちあひ 六三、まちがひ
- 六六、まちびと 六七、まちぶせ
- 七〇、またない 七一、まつかさ
- 七四、まつくら 七五、まつしろ
- 七六、まつさを 七九、まつき
- 八二、まつだけ 八三、マツチ
- 八六、まつやに 八七、まつり

- 八八、まと 八九、まど 九〇、まどかけ 九一、まないた
- 九二、まなこ 九三、まにあはせる 九四、まぬけ 九五、まね
- 九六、マネー 九七、まびく 九八、まひる 九九、まぶた
- 一〇〇、まはふ 一〇一、まはふびん 一〇二、まゝおや 一〇三、まゝ子
- 一〇四、まゝごと 一〇五、まむし 一〇六、まめ 一〇七、まめかす
- 一〇八、まめじどうしや 一九九、まめほん 二〇〇、まめまき
- 一一一、まもり 一一三、まもる 一一三、まもりふだ 一二四、まゆ(眉)
- 一二五、まゆ(繭) 一六、まゆげ 二七、まゆずみ 二八、まよひ子
- 二九、まよなか 三〇、マラソン 三二、まり 三三、まる
- 三三、まるおび 三四、まるた 三五、まるどり 三六、まるね
- 三七、まるのみ 三八、まるはだか 三九、まるビル 四〇、まるまげ
- 四一、まるやけ 四三、まるまる 四三、まわた 四四、まはりつこ
- 四五、まはりみち 四六、まんぬん 四七、まんぐわ 四八、まんげつ

- 一三九、まんてつ 一四〇、マンナー 一四一、マンドリン 一四二、まんなか
一四三、まんねんひつ 一四四、まんびき 一四五、まんしう

七、備考

課外に作製された大カードに眼を通して文字、語句等の誤りを訂正して之を掲示します。

其の一般的共通的な誤謬は書き抜いておいて次のカード作製時（又は他の適當な機會）に是正することにしてゐます。

時によつては各組のものを基として學級全部の共同學習をしますが、本作業材についてはその必要はないと思ひます。

（根岸 豊）

尋四國語科指導案

一、目的

一、本教材は社會的一般生活の一面、通信に關する一部門として電報の取扱ひから

電報の作り方、大體の規定等を知らしめ、頼信紙の使用により、實際的な仕事を作業せしめんとする。

二、金田喜一郎親子の問答によつて本課は終始して居る故これを兒童に生活させることにより、話方殊に對話の作業の中に創造性の活動發揮にも努めなければならぬ。

三、電信局の實際見學により知識の取得と通信事務に對する感激と同情の念とを養成したい。

二、過程

第一時 全課的取扱とす。

1、通讀させる。新らしく指導を要する程の形式的事項（文字、語句）なきため共働的作業にする。

2 大意を捉へる。

大意を把握してから、讀みの作業をしたい。讀みの仕業の意義を強くする考へ

から、此の方法をとりたい。(獨自的作業として)

文字語句の収得

口と手の勞作に訴へる。

思想の發表

イ、誰のお話を書いてあるか。 ロ、電報を打つた人は誰か

ハ、返事の電報、返電を打つこと。 ニ、いろいろ考へてやつと出來たこと。

ホ、頼信紙には誰が書いたか。

(自ら此の仕事をしたい自發心がこゝで自ら喚起するであらう。)

3、語句を指導する。

一音信、信吉(しん)

工夫してごらん。屋がう、

頼信紙、發信、受信

4、讀みの練習(對話的讀み振り)

5、電報料金表は別に造り掲げ自由に觀察させる。規則の一通りに觸れさせる。

第二時 全課的高次體驗の作業化扱ひ、

1、分團的生活で進みたい。(全人的に觀た學級生活單位としての學習個性分團)

2、遊戯の氣分に取り込みし作業とする。即ち目的意識そのもの、遊戯である。

各分團を一家と想定してお父さんを一人定める。外のもは息子でも息女でもよい。

3、別に教師の用意せし電報(模製)を各分團に配達する。

○キフヨウスグ コイヤマザ キ

返事の要求。

何日何時に出掛けることを知らせる。一音信以内に作る。

4、各分團の研究が開始される。

5、頼信紙を與へる。その使用法も同時に又研究問題となる。

6、分團のリーダーがまとめて整理する。

7、要求に最もよく適合し、然かも文字少なく文意明瞭なものをとる。

- 8、電報に對する種々な説話等を試みる。
- 9、最後に又教科書に歸りて、その讀み、會話。

三、備考

- 1、模擬電報等を取扱ふ様にする。(練習作業する。)
- 2、電信局見學の案は立てざりしが、矢張り細案を立て、この際見學實見するを可とする。(觀察作業をする。)

第五章 國史教育

第一國史は日本國體の精神教育をなす教科である。要旨には次ぎの如く述べられてゐる。

國史ハ國體ノ大要ヲシラシメ國民タルノ志操ヲ養フヲ以テ要旨トス

帝國の世界無比なる獨時の國體、そして精神の體驗を中心とするのにある。この國體精神こそ三千年を貫いて流れてゐるのであつて、(一)天照大神が天孫瓊々杵尊に賜

つた御神勅、(二)神武天皇の御盛業、(三)萬世一系の御治世、(四)君臣父子の情義、(五)忠孝一本の道德實行の永久的なる生命の明徴と體得とにあるのである。

第二に國史の學習は勞作的方法によるのがよい。その勞作とは追體驗である。即ち客觀的精神を主觀的精神内に活かすことである。先づ史實を生活として再現する。教師もその史生活の中の一人となり、史中の人と共に活躍して、過古の情意を兒童と共に感じ體得してゆく。

かくしてこそ、史實の生れたる原因、時代の影響、後代への結果などが判明して來るものである。兒童の心情も動き、教師の暗示、教訓を自得したり、人格の修養ともなるであらうし、國家社會に生活する道についても理解するに至る。

方法過程としての大道としては、どうしても説話が中心となる。そして教師にも質問するし、兒童相互にて感想を述べ合ひ追體驗して行くことになるものである。

彼の安價なる國史種本から引抜いて寫して行く自學なりとする方法、單なる教科書の敷衍をしたりする。讀みに合せて行く方法、問題の箇條書き作製をなさしめるため

の自修の學習をする方法、口頭にて討論し合ふところの抽象的なる方法等は避けなければならぬ方法である。

第三個々の文化を明瞭にすると共に、相互の聯關を審かにする。そして全體的に時代の構造を了解せしめねばならぬ。そして時代精神の構造と日本精神の進展について顯現體得せしめる。

國史科學習指導案

一、教材 大石良雄

二、目的 大石良雄の盡忠義烈なる人格を了解させ、當時の逸樂華美にして藝術的享樂的の元祿時世と如何なる内面的關聯を有するかを兒童の學習勞作研究に訴へて體得せしめたい。

三、準備 元祿時代藝術品及び工藝品、良雄の肖像畫、四十七士討入圖、義士關係寫眞、繪葉書、義士浪花節レコード、兒童家庭よりの參考物等

四、過程

一、研究勞作への志向

忠臣藏、由良之助、高輪泉岳寺等の既得事項より彼等の研究志向を促す。

二、研究資料の展覽により、自己の研究方向に資すべき物を捉へ、且つ或る暗示を與へる。そこで獨自學習の勞作的想定を決定發表せしめる。

三、研究(獨自、相互、教師共働)

1、時代と當時の政治

元祿年間、五代綱吉

學問の獎勵が産んだ柔弱

其他

2、良雄生立ち

少年時代——山鹿の兵學

文武兩道

青年時代——伊藤の漢學

3、淺野藩の變事

第五編 各教科教育の方法

城代就任中

殿中松の廊下の場と其原因

當時の官紀

4、良雄以下の仇討の決心と苦心

赤穂大評定の場——論議騒然

良雄の考へ

山科閑居

東下り

良雄等の忠節

討入

學校義士會の思出(學校行事)

泉岳寺引揚、自首

5、義士への輿論と幕府

イ、命乞ひ、武家法度、泉岳寺にかへる。

ロ、吉良家の斷絶

ハ、後世人の敬慕

6、兒童の研究につれて順次補説を加へ、蒐集參考物を提示して仕事を進める。

劇的表現により研究勞作を具體的に演ぜしめ了解體得せしめる、

實感を捕へる

自己收得の表現

史實の真相と脚本

課外作業

大石家系圖

良雄の肖像製作(繪畫、彫刻)

泉岳寺參詣

平間の隱家視察

義士會行事

第六章 地理教育

第一地理教育に於ては本邦の國勢を明瞭にするのにある。そして世界の各國々勢を理解せしめる。かくして世界に於ける日本の地位、特異性が知らせられる。國勢は國家の勢力の意である。

日本の地位を知ることがは國際精神の涵養が隣して理解せられるものである。日本の地位を知らしめることは、日本の政治的、經濟的、文化的の各方面よりする世界舞臺に於ける地位を知らしめることで、日本の眞なる姿も發見せしめることになるもので

ある。

かく國家の國際間に於ける勢力を理解せしめることによつて、判斷力——地理的能力の練磨となり、將來に對する發展力の練磨となるわけである。

第二地理教育の發達について見るとき、誰人も先づ羅列的な無機關係として考へたときから、論理的なる有機關係として考へての教育であるに至つたことは、教育の發達であると思ふ。しかし、それが現在は餘りに學的に過ぎてゐると見られる。

地域に充滿せられたる文化現象——人と地との相關、人と人との社會相關を、地域を全體として、地域の特異性を觀察し見出して行く。そこに頭を向けて働きかける。手技をもつて働きかける。即ち考察し、一聯の下に見るそこに談話に、筆紙に表現したり、補正したりして行くのである。

一聯の下に研究者察されるやうにするとは、全體を全體として理解することであり。従來は部分々々の研究があつたが、今日は全體を知らんとする。地域を知らんとする分析検討であり、全體を知らんとする分解をする。それは部分の研究による部分の綜

合ではない。全體を全體として直覺せしめる。その道行きとして内容的吟味と有機的聯關の重視をするものである。

第三、日本地理教育の向はねばならぬ實際は何處にあるか。それは地球上の全存在と日本との結合關係の理解、日本優越性の理解郷土、日本の關聯、日本愛の覺醒を志向するを要するのである。

尋六地理科指導案

一、兒童の生活態度

A、心意生活の姿

兒童の一般的心意生活の動きを見るにその行動は概して受動的消極的である。しかしこれは女性一般の傾向である。こうした受動的な態度の他面には力の充實がひそんでゐる。思索的自律的內面的動きが強く強く發達し發展し來つてゐることも見逃してはならない。

B、學習の姿

自ら進んで疑問を解決し更に深く未知の世界に突き進むといふ進取的學習態度は見受けられない。従つて創作への學習、新らしき天地の開拓に喜悅を感ずるといふ様なところは見えない。しかしこの態度は女性としての特質をよく理解することによつて舊態を脱し得ると思ふ。深く考へ、よく學習し、愉快に發表し、自力更生の新世界に自力開發の學習へと展開してゆかねばならない。自己をすて、何の學習があらう。將來を見越しての取扱ひ、社會へまでの學習、かうした方面に迄思ひをいたさなければならぬ。卒業を目前に控へてゐるのであるから殊に必要である。最近の學習態度は頗る良好になつて來てゐる。家庭に於ける學習状態も随分よくなり、教室に於て發表することを無上の樂しみとしてゐる。

「今日は先生がしらべてゆきませう。」時折かうして進める時がある。

「あら！つまらない。先生私にやらして下さい、先生」私はこの聲を聞く時に、心からの叫びに接するとき、限りなき喜びにひたるのである。

二、兒童の環境

こゝにいふ環境とは生活の大部を占める家庭と更に進むべき社會の二方法をいふのである。

A、家庭

大部分は勤め人であつて各地から働くために、パンを得んがために集つて來た人々である。家庭に行つて見ても植木に手入れをするとか、鉢に水をくるとかの仕事をする兒童は殆んど無い。うるほひのない生活状態である。

B、社會

プロレタリアの社會である。道德的宗教的のうるほひが無い。雜莫である。あまりに現實的であり、物質的である。かやうに教育的見地から見て面白からざる環境にはぐくまれゆく兒童である。されば常に眼を社會の動きにそゝぎ、その指導に細心の注意を拂ふべきである。

三、題材 朝鮮地方

四、學習の主眼點

新日本の躍進は日本民族の輝やかしい喜びと望によつてのみなしとげられる。朝鮮が日本の平和、東洋の平和の爲に如何に重要な地點を占めてゐるかは過去何十年の歴史が何より雄辯に物語つてゐる。深く朝鮮の自然を考察し、よく朝鮮の社會を洞察してよりよき新朝鮮の建設のために力をいたさなければならぬ。まして滿洲國の建設の折から一層その經濟的國防的重要性をおびて來たのである。よく内鮮融和の實を擧げ共々に幸福の歩みを増してゆきたい。

五、學習上の留意點

A、タゴールがいつた、「お互ひによく知り合ふといふことは共に愛されることになる。」と。お互ひに喜び、お互ひに幸ひであるべき兩國の間にいやな問題が起きることがある。内地人も決して朝鮮人をさげすむ様なことがあつてはならない。ことに本校には二十名内外の朝鮮生れの者が勉強してゐる。この點充分考慮してゆかなければならない。

B、第二は朝鮮の併合は決して日本の占領ではない。東洋の平和のため、兩方の平和幸福のための併合であつたことを理解し誤解しない様特に留意すべきである。

六、學習目標

我が國經濟上國防上重要な位置を占めてゐる朝鮮地方の自然を考察し特色ある地理的景觀を捉へ更に社會を洞察して、人と地の關係を推究せしむ。

七、指導計畫

- A、區分
- 第一時 朝鮮地方史と區域
 - 第二時 全地方の地勢
 - 第三時 全地方の氣候
 - 第四時 全地方の農業
 - 第五時 全地方の牧畜、林業、水産業、工業
 - 第六時 全地方交通都邑
 - 第七時 全地方住民と政治的位置
- 本時(大單元)

B、本時の目的

自然を征服するのではなくて、自然によりよく順應するのである。實に自然の力は偉大である。本地方の農業が氣候或は地勢といふ自然に如何に支配されてゐるか、人が如何にこれを利用してゐるか、その關係を發見し更に進んで産業分布圖作製にまで導きたい。

C、學習過程

- 1、内地の梅雨期と朝鮮の降雨期について指導する。
朝鮮の雨期はこれを二つに分けられる。
南 鮮……六日月中旬から七月初旬(内地の梅雨期)◎六月……八月△降雨季
中部以上……七月中旬から八月初旬(梅雨季の明け)◎十月……三月△乾燥季
- 2、南部多雨……中部以南は内地の瀬戸内海と等しい。多雨と云つても内地の半部位……一四〇〇耗内外。
北部……寡雨……五〇〇耗内外で、内地に比すべき所なし。

参 考



△本邦雨量圖：讀ましむ……事象の生活化を計る。
3、氣温の大略に就いて……夏熱く冬は非常に寒いことを知らせる。
日本で一番熱かつた所は……？

朝鮮……三十九度以上のことは度々ある。

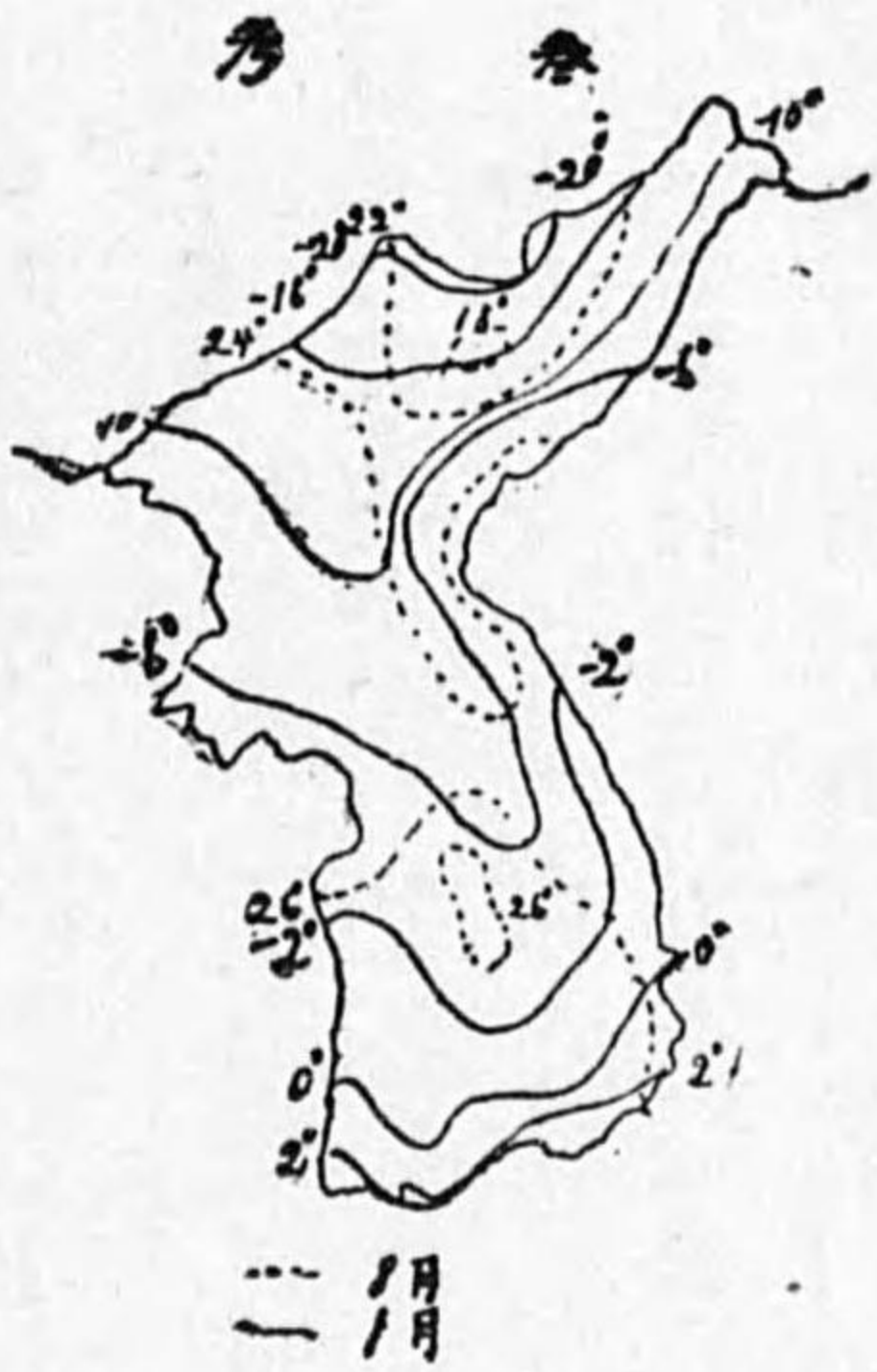
臺灣……三十九度をこしたがほとんど朝鮮のそれと變らない。

◎夏の日は非常に熱い

一日の差も二十五度に達することがある。……氣温の變化のはげしいことを知らせる。

◎冬は非常に寒い

川が氷結する程の寒さである
大同江では冬氷に穴をあけて釣りを垂れる。殊に北部鴨綠江上流は一日平均氷點下二〇度九、樺太の最寒地、一日平均氷點下一七度八



冬の三寒四温
夏の三熱四寒
讀方教材と連絡

雨量圖作製……學習作業
農業研究の對象として

(第二時)

4、農業に至大の關係をもつものは、氣候殊に雨量である。故に雨量圖を参照しつゝ農産物乃至は分布状態を研究させ地域性を闡明にしてゆく。

大陸的氣候
晝夜の氣温の變化
季節的氣温の變化
一般に氣候は悪い

△川崎の最低と比較せしむ……事象の具體化
氣候の特徴をつかませる……事象の綜合統



相互學習的に研究發表させて整理してゆく。

分團的自學的學習相



A、米……天水稻について補説してやる。全く水利の便をかく、従つて頻りに旱害を被る。朝鮮の治水と農業改良にて日本の不足米を補ふことが出来る。

朝鮮の經濟的位置の確認



B、大豆……北鮮地方は氣候風土に適す。
朝鮮……九十萬疔
内地……五十八萬疔
北海道岩手縣……寒い地方

滿洲國の豆類にまで地域性の擴大をはかる。
比較的雨量の少い

C、麥と粟

第五編 各教科教育の方法

大麥(七割) 小麥(二割) 裸麥

粟: 西北朝鮮地方の主要作物

内地の五倍……
内地: 十八萬疔
朝鮮: 九十萬疔

D、棉花: 吾國に棉花の栽培地がない。しかも輸入品中第一位を占めてゐる。これを成功させることは我國經濟上の大問題である。



在來棉……中北部 約三千萬圓
陸地棉……南部 輸入五億五千萬圓

參考 讀賣記事の一節

(生活への導入)

△紡績聯合會は八日正午より委員會を開催し印度關稅引上問題の對策を協議の結果萬場一致印棉不買を決議した。

△我が國綿業會は印棉不買の斷行により全く革命期に直面することゝなつた。

……其の後に於ては印棉に代ふるに米棉を主として支那棉、朝鮮棉等に求めなければならぬ。

(社會への交渉)

△今後の輸出綿布は高級品を主とする英國品との正面衝突を展開することゝなるであらう。我が國としては自由競争主義により飽迄英國品をやつゝけることに努力するであらう。

△危機に頻する日印貿易と題して……

本邦よりの輸出	綿織物	八〇、六五四(千圓)
	絹及人絹	三二、九五七
印度よりの輸入	棉花	九一、七四七
	銑鐵	三、〇二八

以上の様に、今日朝鮮の棉は、我國經濟上益々重要な位置を占めて來た。

P、煙草



京畿忠清全羅北道等の諸平野に多い。

中部の平野↓地域の闡明をはかつてゆく。

F、人蔘……開城附近 栽培の由來物語り

G、蠶業

空氣の乾燥と育蠶恰當の温度

間斷的降雨……桑樹の生育に適す

桑樹霜害の憂が無い

中部以南が好適で我が中部地方と似てゐる。その發展をはかつてゐる。

5、農産分布圖の作製をさせる。

以上の諸事項を綜合して分布圖を作り、地域を明らかにす、個人的に記入させる

白地圖に記入

學習の作業化
地域の闡明化

雨量分布圖と比較して反省させる。

6、教科書の吟味

八、準備

本邦雨量等温線圖、朝鮮地方圖、雨量分布圖(朝鮮)、農産分布圖、各地氣温比較圖
繪葉書、標本等
(熊坂 昇平)

第七章 算術教育

第一算術教育の目的とするところは、(一)日常生活に必要な數量に関する知識と生活中に起るところの數量的事實の處理に伴ふ計算を正統且つ迅速にすること、(二)數量事實の處理に當つて精確に思考する態度とを學習させ、以つて數量生活の正しい擴充發展をはかり、(三)環境相互の關係を函數的に見る函數思想と日常生活を離れぬ經濟思想との養成を目的とするにあるのである。

第二には珠算學習のことであるが、珠算は日本國民生活の要求から重視せられて來たものであり、これが要求をなしつゝある地方に於ては、相當に重視して課するのが

よいと思ふのである。これは古き教科の中に現代的價値が大であることを信ずるからである。

第三には環境の統整を必要とする。(一)生活環境として文化的設備をする。例へば度量衡測定器具、測定用品、幾何形態、時計、寒時計、公債株式證券見本の設備等、(二)多様に雜然たる社會的環境の中を數量的に統整する。即ち交通機關、距離、建築物、自然現象、商店、工場、器物等の統整である。(三)他教科との連絡交渉を計ることである。

かゝる環境の中に於て特に日本的なる材料をとるとすれば、例へば國事、租税、豫算、河川、高山、氣温、緯度、産物、保健、經濟等の材料を選択すること等が著るしいものである。

第四教育の方法としては、實驗、實測、解決の努力活動等勞作體驗の方法によらなければならぬ。かくしてやつぱり能力鍊磨が中心となるのである。

尋常科第四學年算術科學習指導案

一、學級兒童觀

全般的に之を見るならば男子は所謂活動型とみなさるべき兒童多く融合型の兒童(優等生型)は少數で茶目で潑刺としたところを多分に持ち、之を學習態度より眺むれば旺盛なる活動性と絶えざる鬭争的な本能を持って餘し氣味にて競争を好み發表をよろこび常に動的な方向に走りやすく熟考し反省し靜思する事少なく形式(數字、構成)等を顧慮せず結果を急ぐ傾向あり。之を能力方面よりすれば優劣の差甚しく中等兒ともみらるべきもの少し。

女子は其の特性の萌芽を現し記憶力推理力漸次發達し女性らしき細心さが生活の中にとけこんで學習態度も個人的なものより衆團的なものへ他律的なものへと進みつゝあるも、引込思案的に發表を好まず形式にのみとらはるゝが如き傾向あり。猶之を能力方面よりするなれば比較的中等兒多し。

家庭状況を見るに兒童の疑問に答へ知識欲をみたし之を善導するが如き態度を取り得る家庭少なく、極端なる放任と極端なる壓迫態度を取る者多く、數量生活等に於ても功利的な方面にのみ傾く事多し。

之等の事實よりしてその特長を善導、發揮し生活の深化向上をはからんとす、今其の指導の要項を摘出すれば。

- 一、競争、遊戯の部面を取り入れる
- 二、鬭争的な學習様式を取り入れる
- 三、相互學習様式を取り入れる
- 四、自己反省の機會と其の材料を作り、一步々と自覺的に向上させ様とする。
- 五、機會均等主義を重んずる
- 六、學習團體の必要なる一成員であるといふ自覺をうながす
- 七、くりかへしくする中に正確なるものをつかましむる
- 八、形式を重ずるが故に書方點をつける

特に劣等生指導に於て強調する

二、教材及目的觀

一、題目「小數及帶小數に關する應用問題」(五二頁)五、六

二、教材の構造と其の中心生命

加法及び除法を骨子とし平均を求むることを具體的了解せしめ平均の意味及び其の必要を知らしめんとす。

三、本學年本科教材中に占むる本教材の位置使命

「一億未滿の整數につきて筆算の加減乗除を補習し更に數計算の簡單なるものを授け之に習熟せしめんとする事を主眼とす」とある後者の條件に副はんとす。

四、右教材構造の中に豫定せらるゝ陶冶目的と其の中心生命

生活の中に教材を見出し其れを了解することにより、更に其の教材を生活にしみこませることによつて生活の深化向上を計らんとす。

三、指導計畫

一、教材構造郷土化

教材を生活事實の中に發見せしめ其れを出發點として

二、更に教材の有する目的を児童の生活の中に織りこみ行かんとす。
(教材構造の生活化)

三、時間区分

第一時 生活事實を中心とした取扱ひ

第二時 反省及び吟味を中心とし生活事實に本教材を進展せしむる。

推理問題テスト(別紙印刷)

四、本時指導過程 (第一時取扱ひ)

一、宿題の検答 男組、女組の採點競争

二、考查答案の返還 答案の吟味及び反省

三、成績グラフ記入

成績の位置等について概算をさせる

四、成績の反省

五、本時の目的暗示

六、自己成績グラフによる平均の必要と其れを求むる方法を發見せしむる

七、各自の平均點を持ちよつて總組の平均點數を求め

八、更に男女の平均點數を求む

九、教科書教材の自由研究

三、作問の材料を集める、家庭作業

五、備考

此の間に於て生活事實よりすれば割り切れざる事が普通であり、適當なる所に於て省略することが必要であり又小數位まで出す事が合理的である事を了解せしむる。

六、指導資料

1、宿題の問題 2、前日の答案 3、成績グラフ 4、教科書

尋六算術科指導案

一、教材 公債株式

二、目的 公債株式に關しては児童は大體何等の知識を持たぬ。おぼろげなる概念さ

へ與へられて居らぬ故に、模擬的體驗の作業的共働扱ひにより、環境整理より文化財を内容とする數生活の充實深化を計らんとする。

三、過程

第一時

會社工場の見學より得た彼等の既知事項を整理する。

そして實生活との交渉方面を明瞭にする。會社の必要を發見せしめる。具體的に會社を説明する。

會社設立の背景の假説を立てる。(インフレ景氣に乗つて)

1、計畫

兒童、教師合同にて七名の發起人を定める。

早速發起人相談會を開かしめる。

事業有望——資本金の必要——株式募集。

資本金 五〇〇萬圓、株數一〇萬株、五〇圓株。

、額面高、第一回拂込金も決定。會社設立の趣意書も出來上る。

實際募集廣告等揭示

2、株式募集

株券の發行(株券見本提示によつて造る仕事をなす。)

3、應募重役の決定、資金の運用、社員、職工の採用等總べて全兒童の分擔をもつて行ふ。

4、株式賣買の數量生活と問題構成。此處迄に至る問題は已に容易に構成することが出来る。

第二時

1、決算——重役會議——株主總會(配當率、配當金の決定)

配當率が決定されて各自の持株に對する配當金の計算が出来る(教科書中の問題に連絡する。)

2、増資のための公債募集、二五〇萬圓

八分の公債募集

残の株式拂込み

何れが會社には有利なるか

二五圓拂込の同株時價が六〇圓なれば株を賣りて公債と買ふ方が有利か。獨自研究により意見發表及び問題構成をなさしめる。そこで利廻りの了得をなす事が出来る。

第三時

新聞紙上に現はれた國債、公債、社債、株式の賣買相場利廻、其他郷土に於ける直接彼等が關係ある諸社の株式及び社債を相互學習と指導的共働勞作によつて種々なる發見發表を行ひ、以て彼等の生活内容の向上を計る。この間、教科書中の問題及びこれ等についての實際的學習作業を行はしめることとする。

第四時

自由發展的勞作學習

- 一、獨自學習により教科書及び補先問題の研究相談を相互的共働的に行はせる
- 二、事實の創作を重視する。
- 三、この間自ら公式理論に歸納して行く。

第五時

基本的學習の徹底

- 一、テストに基本問題を提供する。
- 二、テストの結果により生活の整理を行ふ。
兒童の誤解點、不徹底なる點の問題につき勞作に導く。
再び相互研究の作業をする。
個人的指導。

練習問題の課題

四、備考 右の作業は、大體十時間位に配當してその徹底を期するやうにする。

第八章 理科教育

第一には日本精神教育に於て、科學的態度の必要なることは明らかなることである。自然に親しむ心、そして精細なる注意と研究をなすの態度、心構へを陶冶することも必要である。又事實、實證に立つて迷信に陥らぬ心の教養とは日本精神教育に必要であると信ずるものである。

理科教育が直接には物質の世界を取扱ふが、その深くには精神的文化の翼賛によつて、物質の世界を知ることが出来る。又自然の直観を得ることによつて、自然に生くる善を實感し、美を觀ずるし、聖なる心にも浸り得るものである。

第二、日本の今日の時代から、將來の日本を考へての上に、理科教育をしてより以上に産業に交渉を持たしめなければならぬのである。即ち實生活社會に活材料を求めて行く。又國民全般に科學的生活を進めて、一層思想生活の堅實性を増して行くこと衣食住の科學的向上を促し生活の進展を計ることが必要である。

第三實物教育についても、精神的取扱ひが必要である。即ち動物、植物が持つ生命美觀を感知せしめる。又實驗に於ては科學的なる態度、沈靜の態度の教養が必要である。これ日本人は飽きつばい所謂七十五日國民だといはれ、性質として興奮性を持つてゐるから一層感ずるのである。

第四日本國狀から材料をとる。勿論外國物質文化をとり、日本特有の材料をば、他國のものと比較して行く。

第五他教科との連絡をはかる。

尋五理科指導案

一、教材 夏至

二、兒童觀

私の受持つてゐる兒童總數は五十八名である。この内八名が優の部、四名が劣の部。其他は普通の智能を有してゐるやうである。全級を通じて無邪氣であることは喜ば

しいのであるが、併し乍らその反面兎用教師に甘つたれ、教師にばかり頼つて自律的にやつて行かうといふ所謂自發的活動の少いのは遺憾に思はれる。

今一つの缺點は功名争ひを極端にやるといふことである。具體的の一例としては算術等に於て他の兒童が間違つた答をすると直ちにその兒童を排して自分が舉手して功名を立てやうとするのである。人生に於ては競争といふことの必要なは今更喋々するまでもないことであるが、それが極端になることは競争のために人生が存在することに人生觀を置くことになりはしまいか、その結果他人のつまづきを待ち構へてゐるといふ悪い品性を形成しはしないかと私は懸念して、常に兒童が間違つた答をしても直ちに他に舉手せしめず、その間違つた答をした兒童に再考の餘裕を與へて正解せしめる様にしてゐる。

落着きの無いといふことも私の組の兒童全般を通じての缺點である様に見受けられるので、授業に取かゝる前必ず若干時間だけ凝念することに定めてゐるのであるが其の効果は容易に現れず如何なる方法を探つたら目的を達することが出来るかと惱

んでゐる次第である。

理科教育の觀點より兒童を見るに、理科を好む者は五十八名中五十六名といふ數である。この調査の結果私の組の兒童は理科の學習に對して大部分か興味をもつてゐると言ひ得るのである。この原因を考察するに、兒童心理の本能的究知慾に基因することは勿論であるが、其の本能的究知慾を巧みに理科教育に誘導されて、理科教育の基礎を築いて下さつた前學年の受持教師の力が私の組の兒童を理科好きにした最大の原因ではなからうかと思はれる。

兒童について理科を好む理由を發表せしめたところ次の如き結果を得たのである。

- △松やいろんなものを研究するのが面白いから
- △動植物のことがよくわかつてくるから
- △むづかしいことを知ることが出来るから
- △いろいろなものをもつて來て、くわしく調べ又面白いことをしらべたりするので面白いから

- △理科はいろ／＼なことを研究するから
 - △わからないことをくわしくしらべるから
 - △家へかへつて研究がしたくて
 - △色々のものを實驗出来るため
 - △かへるのはらやいろんはらをしらべるから
 - △いろんな蟲やいろんな花をよくよく調べると面白いから
 - △點が九點か十點だから
 - △鳥、動物等のわけがわかるから
 - △世界に無いものを發明したいから
 - △昆蟲又は花、植物をくわしくしらべてみると色々めづらしいことがあるから
 - △深く／＼調べてゆくと益々面白くなるから
- 右の答の中には、點が九點か十點だから理科が好きだといふ様な功利的、打算的の理由からのもの、又世界に無いものを發明したいといつた様な理科を手段として目的を達したいため好きだといふ様なものがあるが、此の一二の例を除いて、私の兒童たちが如何に自然の研究に興味をもつてゐるか推察出来る。この事實を唯一の頼みとして彼等の生活を理科教育の本質にまで導入したいものである。

三、目的

尋四で學習した春分の課と連關して、日の出入の方角が最も北に偏ること、正午に於ける日の高さが極度に増すこと、晝は最も長く夜が最も短いこと、暑さが著しく加はること及び梅雨について觀察研究させたい。

四、教材觀

本教材は天文現象中最も顯著な太陽の運行狀態、氣象的現象中最も重要な氣候に注意を拂ふの習慣を養成するには最も適したものであらう。

夏至といふ題目は大人にこそ別に難しい言葉ではないけれども、兒童には難解の文句であるに相違ない。故に之を以て學習題目とすることはしつくりと乗つて來ないのが當然である。併し乍ら春暖の好季から急に日の照り方がきら／＼として暑くな

り、日のさし込みの具合が變り、日(晝)が長く夜が短くなりつゝあること……それが即ち夏至の内容である。

五、教材の系統

尋四第四十六課「春分」、尋五第二十七課「秋分」、同第四十一課「冬至」と連絡して一年中に於ける太陽の運行状態を實驗的に觀察させ、四季に於ける氣候状態を繼續的に觀察させるにある。太陽の運行状態について學習せしめるといつても、どうして太陽の運行状態に變化を生ずるか、晝夜の長さに變化を來すか等その理由の探究はせぬのであつて、それは吾々の眼に映ずるまゝを實驗的、觀測的に研究させると言ふにすぎないのである。

六、教材區分

一時間取扱(本時)

七、教授のプロセス

1、春分の後太陽の出る方向がどんな具合に變つて來たかを兒童の觀察した通りに

發表せしむ。

2、春分の後太陽の入る方向がだん／＼どんな方向へよつて來たかを觀察の通り發表せしむ。

3、運動場の旗竿の影が正午に計つたのがどんな風に變つて來たか。

4、旗竿の影の長さが變つて來れば太陽の高さはどうか。

5、本曆或は新聞の日出日入の欄によつて、日の出、日没の時間を問ふ。

6、日の出、日没の時間によつて晝夜の長さを計算せしむ。

7、本曆又は略本曆によつて夏至と書いてあるところ(月日)を發見、學習帳に記入せしむ。

8、本曆又は略本曆によつて春分を發見せしむ。

9、春分について兒童の知つてゐることを發表せしめる。

10、春分の後晝と夜の長さがどういふ風に變つて來たかを發表せしむ。

11、以上の事實現象を夏至といふと教へる。

- 12、夏至の頃は毎年お天気はどうか。
 - 13、曆によつて入梅を發見せしむ。
 - 14、夏至前後の雨を梅雨といふことを授く。
 - 15、藥罐に冷水を入れたものを置いてその表面に水分の附着するのを觀察させ、其の理由を考へさせ、夏の頃に最も多く水蒸氣の含まれることを知らせる。
 - 16、教科書の取扱ひ
 - 17、今後も日の出、日没時刻を繼續的に注意せしむ。
- 日の出る方向、日の入る方向の見取圖も一週間に一回位づゝ描くこと、運動場の旗竿の影の正午に於ける長さも晴天の日は毎日測定記録すること、氣温は毎日正午に於て測り記入表に記入すること等を自發的になさしむ。

八、備考

教師 本曆或は略本曆。日出、日没及晝夜の長短説明圖、寒暖計、磨いた藥罐、水
兒童 温度表、略本曆。新聞切抜(日出、日没)太陽の高度表 (鈴木 一)

第九章 圖畫教育

第一先づ第一に日本人として見える様に表現する。即ち日本人の心持ちで描かしめるのである。それは油繪でも毛筆畫でもそうであつて欲しいのである。

勿論日本畫の指導を多くしたい。日本畫に限ることは考へ物であり、又日本畫家のまゝの畫を描かせるといふことも考へ物である。即ち東西文化の融合が今日の日本の生活であるからである。日本畫の勝れたる點を保存して行き、洋畫の優れたる點を受け入れるそこに大きな日本的なるものが生れるに至るものであるからである。又指導を受ける者が子供であるから、日本畫家の行き方のまゝでなくて、子供化して指導して行くことが必要である。

第二創作態度を育成して行く。即ち兒童の一人々々の行き方を見凝めて、兒童を發見する。そして創作的態度を獎め、新らしきに向はしめるにありたいものである。

第三郷土と生活に出立しなければならぬ。寫生指導をする以上は、その郷土に題

材を求めてぬるわけである。かく郷土に出発しなければならぬ。それと共に児童の生活の中から題材を持つて來ることも大切なることである。

第四として圖畫教育に於ては、圖案及び用器畫は手工科と連絡して行きたい。それに児童の生活と密接に連絡あらしめてこそ生命的となるものである。

尋二 圖畫科指導案

一、兒童觀から出發する

△家庭生活は餘裕が無いのか、兒童達の心は何時も浮立つてゐる。落付がない。事物に對しての觀察が粗漏です。

△兒童達の周圍には美的情操を助長し、誘導し得るものが、餘りにかくされてゐるばかりではなく、兒童の美的感情の萌芽をも打ち折るものさへあります。

△これ等の中にあつても人間本來の美に對する感情を持つ子供達は、何等かの形式をもつて創造の世界の喜びを味ふとしてゐる。それは兒童達の日常生活の中に誰

もが觀てゐる事です。其處には優劣の區別なく各自相應に喜んで自由に創造、空想の世界を表現してゐます。

△こゝに私は出發點を置き、眞實に優劣の區別なく各兒相應に自分は自分として生活し得る喜びを味ふ様にしたい。

△子供達の仕事はまだ極めて技巧が稚拙ですが内容に於ては豊かな思想を現はします。中には形ある無形なものを描く子供や形はほぼ出來てゐても何等そこに意味内容を持たない只物の羅列に過ぎないものをつくる子供も居ます。

△かう云ふ天分の無い子供には出來るだけ自由に模寫や様々な繪を見せて子供の心に糧をあたへます。

△其の子供達が模寫や鑑賞によつて少しでも形が出來一つのまとまつた思想が表現出來る様になつた時の喜びは大變なものです。

△所謂劣等兒にこそ創造の喜びを一日も早く知らせたいと思ふ。

二、教材とその目的

想畫 課題 今頃の風景

△この題は前に知らせて置き、忠實な観察をする態度を養ふ一助とします。又季節々々による自然の神秘的な變化を觀、季節の特殊性を擷む事が出來ればよいと思ひます。

△教材は子供達各自の家の近所の風景です、風景と云つても所謂景色ではありません。街中や野に於ける人々の様々な生活事件です。

三、指導計畫

第一時 製作

イ、色畫用紙の選擇、配布

ロ、描くものによつて紙の使方を考へる。

ハ、描く前に描かうとするものの發表めいたことはせずに直ちに製作に取かゝる。

第二時 鑑賞と批評に楽しい批評を加へる。

イ、教室内の机は半圓に置き座談をする様な寛いだ氣分にします。

ロ、全部の作品をならべらる。

ハ、鑑賞と反省に入る。楽しい批評も加へる。

ニ、時間があつたら良く出來た子供の作畫に對する感想を話してもらふ。

四、指導過程

本時の指導 製作

△兒童は紙を渡すと大人が考へ及ばない程たゞちに描き始める、兒童達はかきたい心で一杯でありますから、なまじ作畫前に様々な話はいたしません。

△中には未だ描かうとするものがまとまつてゐない子供や技巧の不滿から描いたり消したりする子供が出て來る。其等の子供には或る程度の満足が得らるゝまで自由思考させ畫き直させます。或は行き詰つて何等思想も感情もなく只手の動くがまゝに何とはなしに紙に描く者や描かずにぼんやりしてゐる子供も出來ます。この様な時には、その子供の始め畫かうとしたものに就いて色々聞いて見たり又其の有様を想像して話したりして、もう一度子供の觀たものについて思ひ起させま

す。これは新らしい感情の喚起に外ならないのです。

△又構圖や人物の姿體或は個々の色彩等様々な難關に出會ひ迷ひ出して來る子供も出来る。私は自分で様々な姿體を作つて見せたり友達同志でやり合つて見たり、其の他自由に机間を廻らせて、友達の畫きつつある作品を見て行詰つた心に新しい發見や暗示をあたへる様にします。

第二時 鑑賞と反省に楽しい批評

△子供達は列べられてある自分の繪をみて新らしい或る喜びに打たれる。皆常に嬉しそうだ。

この時子供達の心は盛に反省し、他の作品との比較研究的活動を始め。

△自分の作品について良い所悪い所。注意せねばならぬ所等の發表した子供に話してもらふ。

△教師の批評は所謂批評に陥らず、其繪について作者との相談的態度にて批評を進めます。

「ココハイケナイ」「コレハマヅイ」など頭から云ふ事はつつしみ、なるべく反省、自覺を持つ様にしたと思います。

△兒童の觀察が忠實に表現されてゐる箇所はどんな小さな部分でも見逃がさず、讚詞をあたへねばならない。低學年に於ては、もつとも必要な事です。

五、備考

まだ山のふもとにある二年生の道は廣い、そう狭いやかましい要求はしたくない。出來得るだけ自由に、大膽に、喜びを持つて元氣に歩ませたい。

天分のある子も、天分のない子も共に同じ喜びを持つて
(江口秋彦)

第十章 手工教育

第一には計畫的立場に立たせ、それから創作作業をなさしめる。或る一定の作業、又は規準を定められたとしても、その態度、心組みは計畫的に、そして創作的でなくてはならぬ。教師はそうした方面へと導いて行く。そこに頭も働き、考へられたるも

のが出来ることになる。

第二手工科は一層郷土化されねばならぬ。郷土化とは、その地方化と、更らに日本化されることを意味する。地方化されるとは、その土地に着いて作らせることである。臺灣は臺灣的に、北海道は北海道的にする。都會化し、都會の子供と同じ型に入れるのではない。そこに兒童の創作性と活動性が現はれることになる。

材料は土地に得易いものであり、題材は土地に關係因縁のあるもの、郷土文化的(産業、職業、建築物、生活行事等)のものを取ることを考へねばならぬ。

第三生産と經濟の立場に立たねばならぬ。そうしてこそ實際社會に連關を一層持つて來るとも見られる。過程と共に結果を考へて、製作物を賣物にする。實際社會の設備を學校に取り入れて設備する。材料と、題材を文部省が示して居るものよりは、廣くから取つて來ることになる。都會の手工で取つてゐる材料を雜誌で見直ちに農村兒童に課するといった非教育的にして不經濟なことはしてはならない。

第四作業の仕方として共同社會的の訓練をすることは日本精神教育としては大切な

る學習様式であることはいふまでもない。共同和樂協力互助の一團による作業は、社會生活への準備訓練ともなり、協同社會に於ける個性發揮のよい機會ともなるものである。

尋二手工科指導案

一、兒童に就ての愚感

△大體兒童については圖書の指導案に述べてあります。

△二學年で一番年少である子供達としては思想的にあるまじつたものを作ります。が其の表現されるものが自由でありません。其れは技巧上からと觀察及想像の乏しいことから來て居る様に思はれます。

△廣き深き空想、想像のない事は之等藝術的生活を營む上に置いて本當に退屈な事でありませぬ。

△子供達は何か模倣に依つてこの退屈さから逃れ様としてゐます。又様々な鑑賞材

を欲求してゐます。そして無意識に思想、想像を豊富にしやうとしてゐます、之は本當の人間の本能であると思ひます。

△それを満させる爲に様々な材料、鑑賞資料、創作模倣等によつて創造の糧としてやります。

二、教材 貼畫

不思議なものの顔(材料、色紙、ぼろ、圖畫紙)

三、目的

△兒童達を自由に空想の世界に遊ばせ想像力の一助となす事が出来ればよい。

△ぼろを取り入れた事は兒童に應用の觀念や材料の相異によつて面白味が異つて來る事が會得出来ればよいと思つて使ひました。

△私達の周圍のものは何一つ捨てるものはない事それ相應に使用すれば何でも立派に生きて來る事なども知る事が出来ればよいと思ふ。

△低學年の手工の材料の範圍はもつともつと面白いやうなものを取入れたい。

△自由な素材によつて行き詰つた想像を開いて行きます。

四、指導計畫

第一時 製作

第二時 鑑賞と反省

五、指導過程

製作の指導

△皆の作り度い不思議なものを思ひ／＼に作るやうにします。

△ぼろは形を切り抜いて只はるだけでなく色々な工夫をして使ふ様にしむけたいと思ふ。

△何を作つてよいかを迷つて居る兒童には模作をさせます。

△色々な注意は相談的にして何時も兒童の内にあるものを引き出す様に致します。

二時 鑑賞と反省

△作品は教室へ全部ならべます。

△ぼろの様々の工夫、應用については心からほめてやります。

△軽い批評的なお話。

△児童に勝手に観させます。

△此次に作る時はどんな所を注意するかを各兒に話してもらおう。

(江口秋彦)

尋三手工科指導案

一、教材 水中玩具、船

二、目的 児童の季節的の遊びである、水遊びに使ふ玩具の船を作ることにより手工科に對する趣味と工夫創作の能を養ひたい。

三、教材観

△本教材は材料の上より見ると中葉紙細工で厚紙細工の基礎となる大切な教材がある、ひいては木細工の基礎をなすものである。

△題材より見ると玩具手工で最も子供の生活に關係深きものであるだけに非常に喜ばれる。又船の形、乗合ひ人物、附屬物等児童の創意を自由に表現し得る最も子

供の工夫創作力を養成するに都合よき題材である。

四、児童観

△この期の児童は技巧に比して創造力が勝れて居る技巧の上より見ると簡単な下手な作品でも作者である児童はそれに色々想像して喜んでゐる。指導者はこの點に注意を拂つて技巧が下手だからとて無暗に訂正して児童の創作の芽ばへを摘み取る事の無い様にした。

△中葉紙細工は本學年児童は前學年第三學期に箱、汽車、ひな人形等が製作されてあるが水中玩具は初めてである。

五、準備

參考資料、用紙、火鉢とバラピン、水槽、竹、糸、ハサミ、モノサシ、クレオン。

六、指導計畫

△本教材は二時間を一單限としたる大單限取扱とし製作法は次の表の最後にある基本となる一部に模作を加味したる製作法の取扱にした。

△製作方法

模作法

自由選題による創作法

創作法

課題による創作法

題材だけ示して全部児童の創作による
基本となる一部に模作法を加味したる
創作法

七、指導豫定

スワン(ボート)



汽船



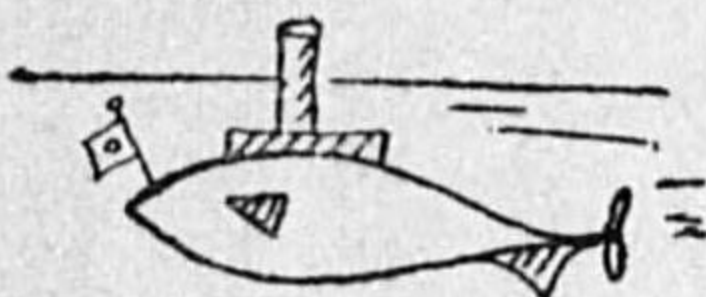
帆船



飛行艇



潜水艇



△製作する物につきての相談

児童の見聞したる船の種類を發表せしめる。
彼等の生活内容から豫想せられる實物にては
軍艦、汽船、帆船、ボート(スワン型)繪畫、
寫真にて飛行艇、潜水艇、飛行母艦等が數へ
られるであらう。
其の中より各自製作する物を決定させるので
あるが私の豫想せられるものを二三あげて見
やう。

△各自任意に製圖させ机間巡視をなし不備のもの一寸改良すると非常に面白くなる
もの、着想の優良なる代表的の製圖を集めて児童の意見を聞く。

△製作に先だち次の注意をなす。

(イ)クレオンの着色はなるべく糊付けを終つてからする。糊付け前にする場合は
糊付けする場所にクレオンをつけぬ様注意せしめる。

(ロ)立體化してからの着色は非常に困難であることを注意する。

△製作 前項の注意事項を考へて製作順序をきめすぐ製作に取りかからしめる。製
作中は製作の興味をそぐ一齊的指導はなるべく少くし個人的指導とする。
汽船なれば国旗、煙突、アンテナ、乗組員等、ボートなればボートにふさはしい
附屬品をなるべく多くつけさせる。

△クレオンにて着色し、バラピン引に仕上げて絶対に水の入らぬ様になす。

△鑑賞 各分團ごとに水槽を用意し、花崗岩の小砂利にて船體の沈みを調節せしめ
浮べて鑑賞させる。

(赤堀 吉雄)

第十一章 體操教育

第一體操の進むべき道は、生命的にして躍動的なる兒童の心から即ち個性的なるリズムに發し、喜悅、爽快味を伴ふ道への歩みを歩むものであつて欲しい。その反對に機械的にして他律的なる肉體運動であつてはならぬ。

かく考へるとき、日本の體育方法より優れたるものゝある時は、彼の研究を取入れ有効に活用して行くのがよい。

第二日本人としての體操は日本人の生活に即してやることである。外國人の眞似をしてはならない。日本人の優れたる方向を伸ばして行きたいものである。そして彼に優ることこそそのぞましいことであり、それが願ふところでもある。

第三體操は精神、身體の一元的なる發展統一にあり、人格向上への道であることは繰返へしていふまでもない。その方途として、新教材を廣く求めよ。そして精神的方面に良影響を及ぼす様にすることに努力せよ。といひたいのである。

第四、上級に進むに従つて鍛練的體操の指導をする。一般的に團體生活の指導に努めねばならぬものである。

尋二一體操科指導案

一、級の兒童と學級經營

入學當初から持上つた兒童(男三〇、女二七)二月三月生れの最も小さい兒ばかりの集まりです。未だ何となく乳のくさみも抜け切らな様にさへ思はれる弱蟲の兒童、十分の遊び時間にも泣く兒、泣かされる兒が二三人もあるし、靴や下駄の間違ひにも泣き出すのが先立つてゐた兒童でした。

此の兒童に對して「私は強くなりたい」と思つたのです。「小さいながらも自分の力一ぱいを爲し得る強さ」が欲しいと思ひました。

それで二年生になつてからは、一年生の取扱ひの養護過重の時代から暫時、訓練へと轉向し始めたのであります。兒童は何でも喜びに變へるものだ。

入學したよろこびに酔つてゐる中に、此度は進級して弟妹の出来たよろこび、何から何まで延びて行く、育つて行く感激なのであります。

弟妹の出来た其のよろこびのためか近頃は幾分自覺へと向つて来た様に思へます。次に身體的方面を見ますと

發育概評 甲五名 乙四〇名 丙一二名

營 養 甲五名 乙五一名 丙一名

の有様でありますけれど、うれしい事に運動の出来ない児童も、特別異常児もありません。そして児童達はどの學科に對しても現在のところ、喜んでやりますが特に「此度は體操の時間」といふと、ほんとに飛び上つて嬉しがります。

この児童の最も好む體操によつて、児童の短所を補ひ、長所の助長に努める事は意義なき事ではないと思ひます。體操は技術のみの教科ではない。力一ぱいの運動、共同の力に依つて美も、眞も、そして聖も、醸し出されねばならないと思ひます。

二、教材について

本時はリズム應用を主とした教材といたしました。

私は一週間三時間の體操の時間中、平均一時間をかうした教材のため使ひたいと思つてゐます。この時間には直線體操の時に餘り得られなかつた種々のものを握ることが出来ます。本時の教材について大體申しますと

1、基本動作 小筋、大筋を動かして血行をよくするため又一つには身體各部の運動のために誘導運動のつもりでいたします。この材料は何れも要目中から採りました。次には音樂の伴ふ曲線運動に對する

2、基礎練習教材でございます。

ここでは音樂リズムの時間、力、空間についての關係や、拍子等について、練習させて見たいと思ひます。次に課する

3、唱歌遊戲教材は、児童の心理に立脚したもの、興味中心として行ひ、今まで少し理論的だつたのを心理的に變化して來ました。

4、歩法練習 樂器に合わせて歩く、それだけでも児童はよろこびます。まして音樂

に合せて種々の歩法をするのは決して難かしい事ではないと思ひます。

5、律動遊戯

新教材の「人形の兵隊」(第二節)と既習教材「遊びませう」の練習。

6、整理

三、指導内容

背	基 本 動 作					順序	運 動	始の姿勢	用 具
	体側	平均	胸	上肢	下肢				
背	体側	平均	胸	上肢	下肢 <td>秩序</td> <td>集合 整列 番號 前歩 右(左)向</td> <td>腰掛上直立</td> <td></td>	秩序	集合 整列 番號 前歩 右(左)向	腰掛上直立	
體前下屈	體側轉	舉踵半屈膝	掌外反胸後屈	臂前舉	舉踵半屈膝			直立	腰掛
臂上舉間脚	手頸腰掛	腰掛上直立	腰掛	直立	腰掛上直立				腰掛
	腰掛	腰掛	腰掛						

考 備	整 理	遊 戯	クツミトリ
○新教材(第三節のみ) 兒童の氣分等を考慨して順序は變更す	下 肢	△かへる(唱歌遊戯) △律動遊戯 △リレ	△時間と動作 △力と動作 △空間と動作 △二拍子と歩き方 △ポーズの練習
	呼 吸	●遊びませう ●人形の兵隊	
	臂側舉々踵		
	直 立		
	手腰直立		

本時の流れ

私が呼笛を鳴らすまでは、兒童は自由に、女の兒は私の圍りに集つて遊びます。呼笛一聲、男生は右側、女生は左側に集まります。集り方が餘り芳しくない時は整列競争的に入れ變りをさせます。

前に準べて正しい二列となり、右(左)向で頭を働かし出します。かうして基本動作を續けます。

△児童は樂器に合せて圓く歩いてゐます。クロ』で歩いてゐるのです。その中樂器の方が早くなつてハタ』となりました。児童も』の足どりとなつてトン／＼駆け出します。クロ』にもごります。児童も樂器が』シロで響き出すと、児童も腰をまげて歩き出します。腰をまげるのは注意します。こんどは私が口で、シロ、クロ、等と言ひますと、児童は樂器に一しよに』に歩き、』に走ります。

△樂器が強くなり出しました。児童は驚いた馬のやうに強く歩き、弱くなれば音も立てない様に静かに歩きます。樂器が高音を出してゐれば、児童は兩手を高く上げて、低音の時には伏して歩きます。

△歩行から二拍子へ、児童は』で歩いてゐます。私が「二倍といひますと、』で歩き、「二つに分けて」といひますと』に變つて來ます。アクセントもつけさせたいと思ひます。

△ポーズの練習

A 一児童のまね、一人の児童は、よく見える所で、樂器に合せて、一二三四と歩き五で好きなポーズをします。他の児童はそれに合せて次に作ります。

B 二人となつて、一生が前者となり、二生が後者となりてポーズの練習

CBの反對

軽い二拍子の曲につれてダンスの歩き方(ダンシングステップ)が始つてゐます。中を向いて手をつなぎこんどは「ゆりかご」自然のポーズもつけて。

あちらに立つてゐる飛越棒まで、往きはステップで歸りには障害物平均臺をわたつて來る競走

赤も白も桃も青も大騒ぎ、やがて勝負もついて萬歳靜かに整理運動をして終りとなるのです。

四、備考 新教材 人形の兵隊(第二節)

1、八呼間 直立したまゝ、指揮をぬくこと二回。

- 2、四呼間 二人向ひ合つて足踏。
- 3、四呼間 兩手五指をひろげて二人で二回拍子。
- 4、八呼間 内側の手を取り前進し、もどる。
- 5、八呼間 二人向ひ合つて兩手を相手の肩にかけて頸を左右にまわして會釋する。

(西村まよ子)

尋四體操科指導案

一、體育行の解剖

△環境 兒童の現實相

- 1、川崎、エントツの川崎、彼等の父兄の大部は鋼管にセメントに朝に夕に自轉車を走らす。
- 2、彼等の過半数は移住者であり、ともすれば落付きなく統一の精神をかき易い。
學級兒童七十三名。

3、彼等の家庭は寢食を過すに足る位で遊び場の存在を見ない位です。

△現實相からあるべき體育行を求めて見る。

(1)一の現實相よりして働き得る人間

彼等は近き將來その殆んどが工場街川崎を育てねばならぬ。機械と火、煙と汗とを友達としての彼等の生活それは必然的に強健なる體力と勤勞、敏速の精神とを求むる。それはかかる郷土からの要求のみならず國家からの要求でもある。

(2)二の現實相よりして中心への統合一體の生活表現

おしやべり、わき見、けんくわ、手いたづら、それは彼等を表現すべき最もよき言葉であるかもしれない。おしやべり、わき見、けんくわ、手いたづらをまことの道へ統合して表現させる生活そこには軍隊に於ける嚴肅と、禪に於ける我慢(死ぬ氣)とを要求するであらう。それは彼等の死の生活にあらずして生への轉向である。

(3)三の現實相よりして體育生活場としての學校

△彼等はかく歩み、歩まんとす。

1、歩まんとする前提に於て

學校定期身體検査を通しての第一次個性別の發見

發育概評 丙一五、榮養丙一、脊柱彎二、失明(一眼)二 耳疾二、扁桃線肥大四

斜頸一(重複兒童もあり)

學校定期家庭訪問を通しての發見

運動中顧慮すべきもの三(先天的龜脊、失明、斜頸)

運動をなさざるもの一(病弱兒)

2、弱き者はかく歩む(鍛鍊中心の體育行)

日光浴、樹下に遊ぶ

夏季臨海學校(扇島海水浴場)

校醫による治療

3、強き者はかく歩む(鍛鍊中心の體育行)

禪生活第一步としての教室行

彼等は常に耳と肩、と臍と鼻を相互に對待せしめる

姿勢に於て發表、傾聽をなす(入梅時指導、運動會、遠足會、夏季休暇體育)

雪合戦(中島の原)、端午の凧上げ(中島の原)、遠足(明治神宮)、運動會、部落競

技會、夏季練習

ラヂオ體操(朝會) 共同運動(月曜第五時) 放課後ドッチボール練習

體操

4、身體發育均衡度を通しての第二次個性別相の發見と生活中心點の推移。

彼等は理論、想像を基點とする觀察を通してそれを合理的な科學的要求にまで進ませるのであらう。即彼等は學校定期身體検査測定値を通しての身體發育均衡度を要求する。

$$\text{偏差價} = \frac{\text{各自の發育度} - \text{平均發育度}}{\text{標準偏差} \times \frac{1}{10}} + 50$$

均衡度＝體重(又は胸圍)偏差價－身長偏差價 (丸山良二氏案)

二、本時體育行の内容

段階	誘導	運動	主
順序	秩下 頸序	下體上肢 肢肢	胸懸垂 平均 腹側 背走 行進、 跳躍 遊戯
運動	集合・整頓・番號・排列 涵前舉 頭各方屈 臂前伸 體側屈 足側出臂側舉		掌外左胸後屈 前方斜懸垂 舉踵屈膝 體側轉 體前後倒 體前後倒 ◎體前後倒 臂前振上方跳 前方轉廻 ドリブル ポトル
始めの姿勢	手腰閉 手胸直 手臂直 片手頸開 直脚立		臂側舉開 直腰直立 手側舉開 脚支持腰掛 屈臂開脚 臂直立
用具			横木 腰掛、肋木 マツ ポール 旗

三、體育行の流れ

- 1、一體の生活表現者としての級長
ベルになる。整列に向ふ各童、級長の氣を付け、右へならへの號令、師への禮
兒童の意志を融合して流れる級長の聲を吾人はきく。
- 2、自覺といふふるひをかけての自己活動―本能、衝動の第一次的自己活動をふる
ひかけての第二次自己活動、師の號令、彼等の動作、それは單なる機械の流れで
はない。彼等のまことのこころ、大和魂を通しての活動である。こゝに彼等の嚴
肅と敏速と節度とを見せるであらう。
- 3、自らが自らを律する。

整理	下肢	舉踵半屈膝	手腰直立
運動	呼吸	胸前後上舉	手胸直立
備考	◎印は新教材取扱ひ		

横木、肋木への走、整列彼等は不言のうち自己を律して自己の位置を求むる。
4、共同と自力本位

彼等はこゝで他の動作を批正補助し、一方自己の力量に感じての運動を行ふ。
5、かくして體操の殿堂―身心の喜びへ

まちこがれた轉廻、ドッチボール、もう彼等の喜びは一ぱいとなるのです。

(土方恵治)

日本精神の新農村教育 終

昭和九年十月十日 初版印刷
昭和九年十月十五日 初版發行

日本精神の新農村教育〔奥附〕

定價金貳圓四拾錢



1019

著者 山崎 博
東京市京橋區入舟町三丁目三番地
發行者 藤原 惣太郎
東京市京橋區入舟町三丁目三番地
印刷者 葛原 秀一

發行所

東京市京橋區入舟町
振替東京一八五二三番

明治圖書株式會社

大賣所	東京	林平書店	東京	名古屋	川瀬書店
	北隆館	東京	久留米	菊竹金文堂	
	文林堂	東海堂	佐賀	大坪惇信堂	
	合資會社	文盛堂	金澤	宇都宮書店	
	柳原書店				

【書育教の書圖治明】

教育思想参考書

<p>東京帝大教授文學博士深作安文先生著 定價四、二〇</p> <p>思想と日本</p>	<p>早稻田大學教授 稻毛詛風先生著 定價三、二〇</p> <p>現代思想と新日本の教育</p>	<p>文學博士 野田義夫先生著 (菊判) 定價五、〇〇</p> <p>勞作教育原論</p>	<p>奈良女高師主事 木下竹次先生著 (菊判) 定價各四、五〇</p> <p>學校進動論 上卷 下卷</p>	<p>東京帝大教授文學博士入澤宗壽先生著 (菊判) 定價四、五〇</p> <p>最近教育の思潮と實際</p>	<p>東京高師主事 佐々木秀一先生著 (菊判) 定價五、〇〇</p> <p>現代教育の諸問題</p>	<p>文部省前督學官文學博士 塚原政次先生著 定價四、五〇</p> <p>兒童の心理及教育</p>
<p>▲倫理學の泰斗深作博士が蘊蓄を傾けて熱叙せる非常時救國の寶典</p> <p>▲現代思想の批判・日本精神の闡明・神道の詳説・道徳的歸趨の嚴示——かくて新日本教育の根柢を培ふ</p>	<p>▲小學教員より大學教授まで進みし我國教育界の明星稻毛先生が現代思潮を大觀し洞察して教育革新を叫ぶ斯界の警鐘</p> <p>▲卓見高邁・抱負雄大——行文流麗——現代稀に見る名著</p>	<p>▲勞作教育の最高權威として令名高き著者か確信の力著</p> <p>▲勞作教育本質を論じ指導原理を説く開拓的新教育書</p>	<p>▲天下を風靡せる奈良女高師の大御所木下先生が心血を凝ぎ大著</p> <p>▲新教育の魁——學校及學級經營の原據——新學習道の開拓!!</p>	<p>▲本邦教育界の泰斗たる入澤博士が現代に於けるあらゆる教育思潮と其實際とを大觀して之を系統的に詳述し且つ公正適確なる批判を下せし名著</p> <p>▲新學校並學級經營上に一大光明を與へしもの</p>	<p>▲日本教育界の重鎮佐々木主事が歐米視察歸朝後祖國愛に燃えて獅子吼せるもの</p> <p>▲新教育の諸相を凝視解剖して採長補短以て本邦教育の特性を強調せしもの</p>	<p>▲心理學界の總將塚原博士が兒童心理の真相を促へて兒童の個性・精神發達・言語・遊戲・道義感・精神異常其の他數十項に亘る深き研究を發表して新教育の基礎を築きしもの</p>

<p>友納友次郎先生著 (菊判) 定價六、八〇 新講話料大成 事、祝祭記念日、青年指導</p>	<p>東京高師前訓導 相島宮部兩先生著(菊判) 定價四、五〇 祝祭日及び 講堂訓話資料 國民記念日</p>	<p>文學士 大澤作次先生著 (菊判) 定價四、五〇 新時代訓示講話大系 社會教育</p>	<p>京都府女子師範前主事 鹽見靜一先生著 定價一、六〇 教授法批評要義</p>	<p>神奈川女子師範前教諭 山崎博先生著(四六判)二、九〇 參觀と批評の要諦 生活指導</p>	<p>東京市學校醫・醫學博士 岡田道一先生著(菊判)四、二〇 學校衛生の理論と施設</p>	<p>東京市學校醫 岡田道一先生著 (菊判) 定價二、八〇 學校衛生と救急法</p>	<p>東京高等師範前訓導 山田義郎先生著(菊判)定價四、五〇 衛生施設行事の實際 小學校に於ける</p>
<p>▲活きたる訓練講話 料として美談あり逸話あり ▲祝祭記念日に關してはその原據を明かにして重要な ▲一年を通じて日毎に適切有効なる説話を掲ぐ</p>	<p>▲國家的祝祭日國民的記念日の由來と式次を説きて至 ▲感激深き活引例の豊富なる講話の多趣味と多様な ▲兒童の生命に即せる實に此の種著書中の白眉たり</p>	<p>▲學校生活社會生活中の目星しきものに關し其の意義 ▲を明かにし適切なる指導要項と注意事項を詳記す ▲訓話、講話、訓辭、式辭、祝辭、答辭、挨拶等、多の好資 ▲料あり</p>	<p>▲教授法描くは折角の理論も努力も効果少きことい ▲ふ迄もなし ▲本書は三十年の體驗に基き各科に亘りて教授法の要 ▲訣と批評眼養成の眞諦を説く斯界の虎の巻</p>	<p>▲教科の本質及學習指導の様式と秘訣を詳述せる新教 ▲育の所産 ▲參觀及批評の根本要義を述べてその方法を體認せし ▲むる活指導書</p>	<p>▲著者は醫學界の泰斗にして東京市學校醫の最高權威 ▲本書は著者が多年の體驗により學校衛生の各方面に ▲互つて理論と實際とを明かにし可憐なる兒童身體の ▲保健と發達を念願せる斯界の名著</p>	<p>▲學校衛生施設・身體検査・疾病及豫防衛生・常備藥等 ▲に關し詳細に述べ ▲尙救急法に關してあらゆる場合を考慮して綿密仔細 ▲にその原因症狀及療法を説く</p>	<p>▲一年十二月各季節によりて衛生事項を細叙せし唯 ▲兒童の心身と學校生活の契機を説いて衛生保健の深 ▲研究を公けにせしもの</p>

<p>慶應義塾大學教授文檢委 小林澄兄先生著 定價四、五〇 最近教育思潮概説</p>	<p>東京女高師 堀王事外七先生著 (菊判) 定價四、五〇 作業教育の實際 教科中心</p>	<p>東京女高師教授兼主事北澤種一先生著(菊判) 定價四、五〇 現代作業教育の諸問題</p>	<p>ドクトル・オプ・フイロソフイー 大伴茂先生著定價四、五〇 個性調査と教育指導</p>	<p>廣島高師教授 清原貞雄先生著 (四六判) 定價二、四〇 日本國民の精神</p>	<p>文學士 金子彦二郎先生著 (四六判) 定價二、八〇 日本國民の實證的研究</p>	<p>東京女高師訓導 山内俊次先生著 (菊判) 定價四、五〇 遊藝 低學年教育原論 生活</p>	<p>文學博士 谷本 富先生著 (四六判) 定價三、二〇 宗教育育の理論と實際</p>
<p>▲教育學界の重鎮小林先生が内外に於ける最近教育思 ▲潮の諸相を大觀し凝視してそれに深奥なる卓見を述 ▲べ厳正なる批判を加へしもの ▲新時代の教育者にとつて最上無比の指標たり</p>	<p>▲體験が産みし作業教育理論の究明樹立として確信あ ▲り ▲各科作業活動の動機發展整理の過程を具體化せし活 ▲指導書</p>	<p>▲作業教育提唱の始祖として著者の名は餘りに有名で ▲ある ▲此の種文獻の最高原據</p>	<p>▲個性調査の原理方法及整理に關する最新の研究を進 ▲め且つ之に基きて教育指導の全面に亘り詳述せし斯 ▲界の獨創的開拓書</p>	<p>▲著者清原博士は日本精神研究の最高權威としてその ▲卓識と至誠とは世に定評あり ▲非常時日本情勢日を追ふて愈々深刻ならんとする ▲の時、眞乎日本精神の精髓を促へ本書の價値絶大</p>	<p>▲愛國熱情の碩學として令名高き著者が叫ぶ日本精神 ▲の眞髓 ▲全世界に於て絶せる我が國民性の精彩を幾多の實例に ▲徴し以て熾烈なる祖國愛をそよる心血の熱著!</p>	<p>▲遊藝本能と遊藝生活を關明して其教育的價値を強調 ▲遊藝生活の實際指導と低學年教育の各心身の特徵考察 ▲遊藝生活の實際指導と低學年教育の各心身の特徵考察 ▲尙價值多き遊藝百數十につき實演方法を詳説</p>	<p>▲我が國教育界の始祖とも呼ばるゝ谷本博士が精魂を ▲傾けし力著 ▲宗教育育の本質を闡明してその具象的事例をあげ且 ▲つ指導方法をも明示せる近來の雄篇</p>

【書育教の書圖治明】

<p>川崎市田島體験學校校長山崎博先生著 四六判 定價二、〇〇</p> <p>實踐勞作教育</p> <p>▲我が國に於ける勞作體験教育の發祥校。校長苦心の力作。 ▲作理論を明かにし之を具象化する新教育の光明。 ▲兒童生活に即して指導要訣を細説せる斯界の羅針盤。 ▲國民的學校行事の解説と其の實際的施設の要諦を指示す。 ▲低・中・高學年の三部に分ちそれ〴〵講話並訓練資料を配して興味極めて多く感激を呼ぶこと大なり。</p>	<p>東京帝大教授入澤宗壽 山崎博兩先生著 定價三、〇〇</p> <p>生活指導 小學校行事の研究</p> <p>▲郷土化する國民教育の活ける具象的指標として稀に見る優秀篇。 ▲過去・現在及將來を連繫せる尋六教育の本質と使命を明かにしてその指導法を叙ぶ。</p>	<p>滋賀縣 豊稜小學校編纂 (四六判) 定價二、八〇</p> <p>郷土化せる 尋六仕上げの教育</p> <p>▲純農村小學校としての師範附屬校に於て研究せし體験の活記録。 ▲農村の形態と農村兒童及其の環境を精査深究しかくて眞平の教育經營と各教科の指導要項を明示す。</p>	<p>栃木縣師範學校附屬小學校編纂 (四六判) 定價三、八〇</p> <p>農村小學校教育の建設</p> <p>▲農村愛と教育愛の二重奏に高鳴る新時代の教育書として出色あり。 ▲新日本の農民養成を目ざす眞剣なる學校經營の模範。</p>	<p>和歌山縣野口小學校前校長佐竹義一先生著 定價三、〇〇</p> <p>現代 農村教育の實際的研究</p> <p>▲最新教育思潮に則つて各教科の特質と眞目的を見きはめし斯界の標識。 ▲各教科の指導觀を詳述し指導様式、具體案によつて示せし活指針。</p>	<p>東京府豊島師範學校附屬小學校編 (四六判) 定價三、八〇</p> <p>各科教育の思潮と實際</p> <p>▲作業學校の始ケ氏教育説の眞髓を祖述し得て餘蘊なし。 ▲尙國民教育の本義を論じて新教育者の使命を糾してその自覺と發奮を促せる名著。</p>	<p>廣島高等師範講師越川彌榮先生著 (菊判) 定價四、八〇</p> <p>文化主義 新教育原論</p> <p>▲最新教育思潮の再檢討に成る研鑽と卓識の所産。 ▲文化自體を統平原理とせる教育觀に基く新教育根本原理の闡明。 ▲現代教育諸問題に關する大觀批判並具體的解決。</p>
---	--	---	--	--	---	---

【書育教の書圖治明】

<p>東京府立第一高等女子學校校長 市川源三先生著</p> <p>一日 修養生活</p> <p>四六判 定價三、〇〇</p> <p>▲女性教育の大家として令名高き市川先生が至誠の通り一日一頁金言並に美談を掲げし感興深き活人生訓。</p>	<p>中女 愛兒の入學</p> <p>四六判 定價一、〇〇</p> <p>▲中等學校入學問題を捉へて縷々説き及ぶ斯界の絶好指針。 ▲教育者も父兄も共に見逃すべからざる愛兒への福音せる新時代の活教訓。</p>	<p>青春時代 (其の特色と其の教育)</p> <p>四六判 定價一、〇〇</p> <p>▲人情味豊かにして意義多き結婚座談會。 ▲舊に泥まらず新を銜はざる文化的人道的結婚觀。</p>	<p>結婚の前後 (其の準備と教訓)</p> <p>四六判 定價一、〇〇</p> <p>▲夫婦和合と一家幸福の秘訣を説く經典。 ▲卑近なる裡に眞理を説く眞人生觀の異彩。</p>	<p>結婚生活 (其の理想と其實現)</p> <p>四六判 定價一、〇〇</p> <p>▲結婚前後に惱める女性の告白に對する明快なる解答。 ▲現代女性に正しき人生行路を明示せる光明篇。</p>	<p>女性と語る (其の訴へと其解決)</p> <p>四六判 定價一、〇〇</p> <p>▲複式教育の研究家として又その體験家として知られたる三木先生が蘊蓄を傾けし連續五冊の力作はこれ複式教育の本質と價値とを叙べてその獨自性を強調す。 ▲複式教育の經營方針・編成・指導原理・指導様式細述す。 ▲複式教育に關する各學級の特質と重點を明記す。 ▲各學年各學級に於ける實際指導の主要點を詳説す。 ▲各教科の本質を糾して詳細なる各學級の教授細目及各教科指導案多數をかかぐ。 ▲あらゆる新教育説を取り入れて新時代に於ける複式教育の先驅を試むる斯界の最高權威たり。</p>	<p>士學文 著生先郎太英木三</p> <p>未分科 尋一・二の複式教育</p> <p>進生命 實踐複式教育</p> <p>進生命 尋三・四の複式教育</p> <p>進生命 尋五・六の複式教育</p> <p>進生命 高一・二の複式教育</p> <p>錢十六圓二各價定</p>
---	--	--	--	--	--	--

【書育教の書圖治明】

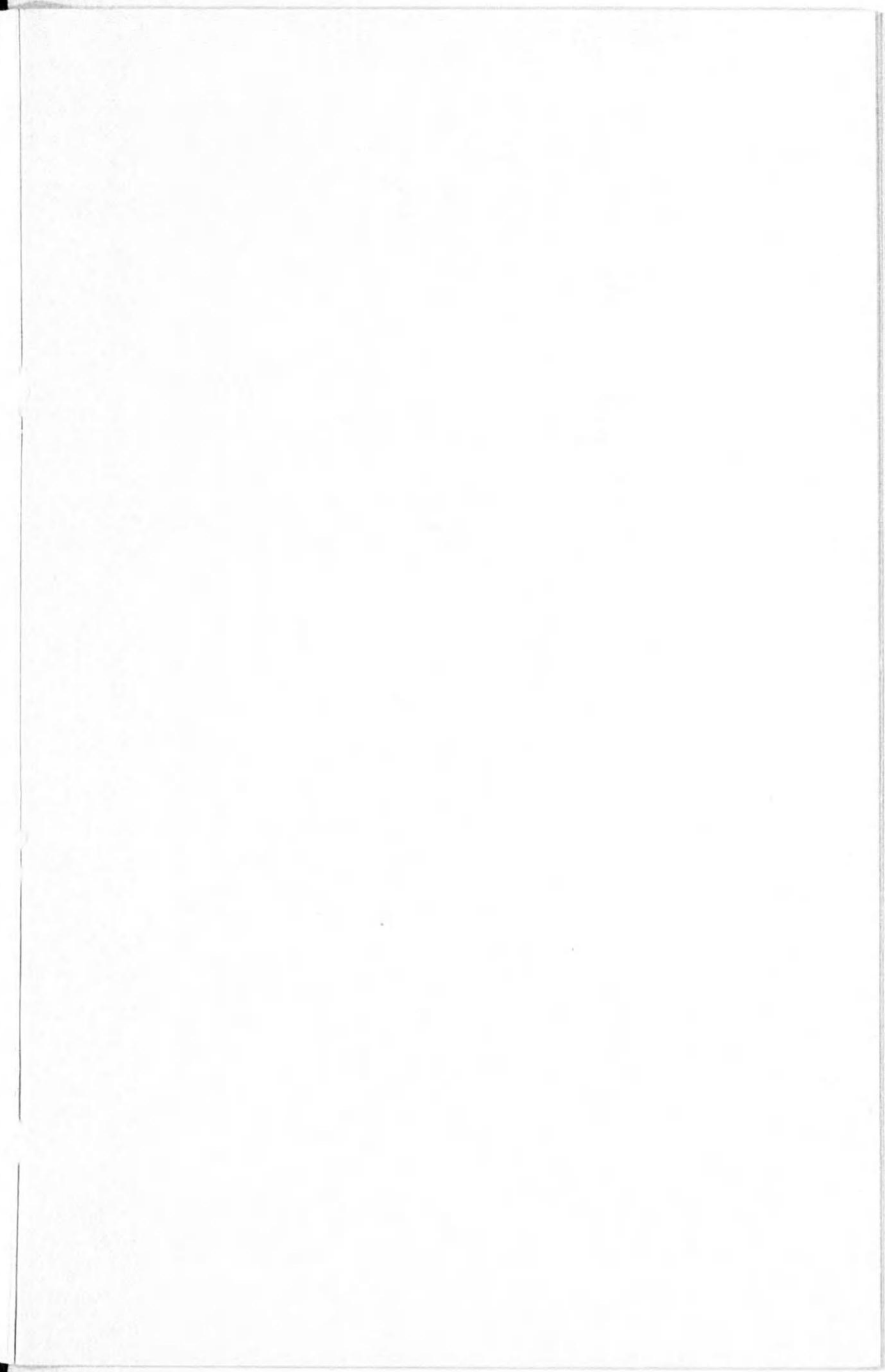
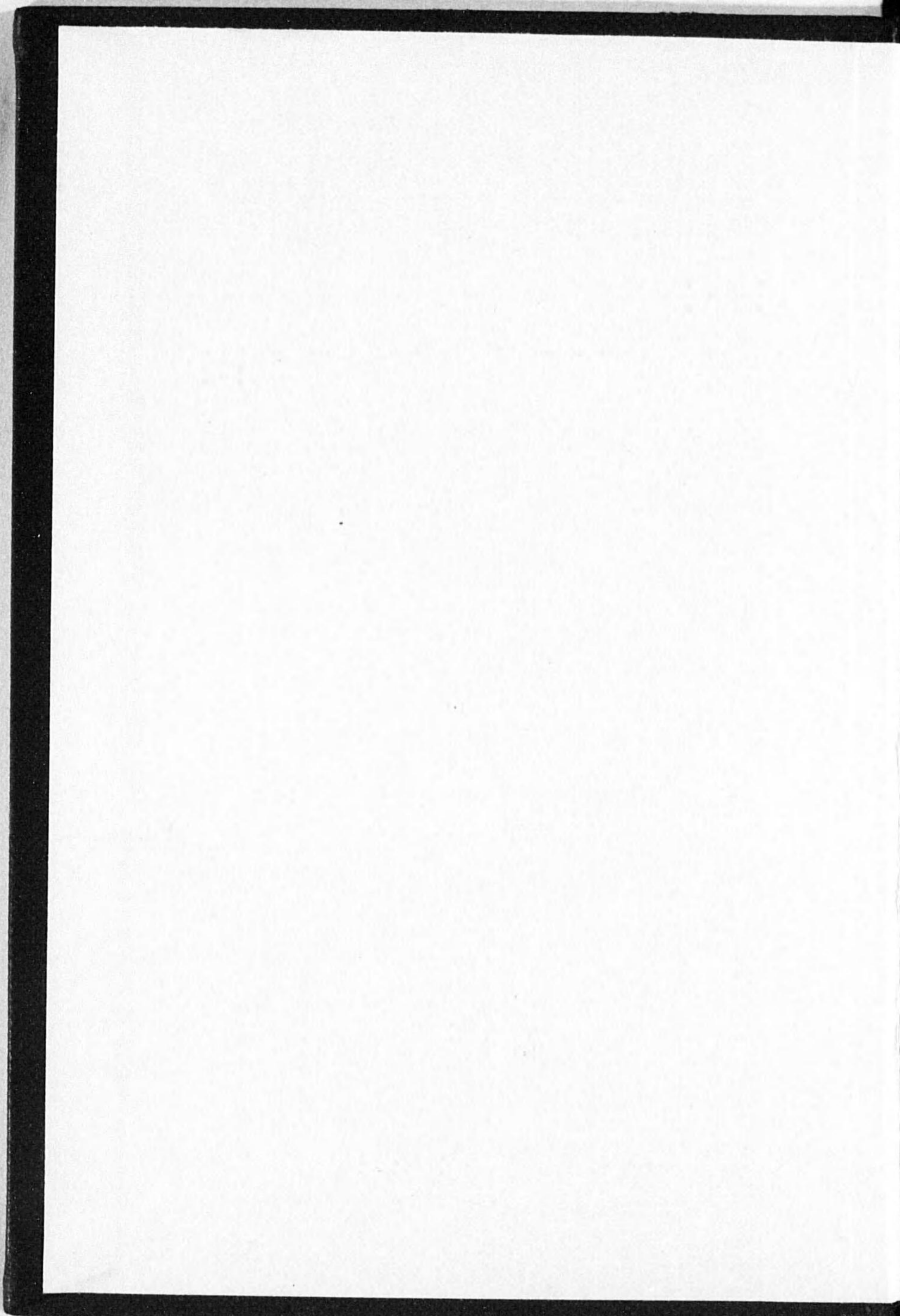
<p>文學博士 吉田靜致先生著 (菊判) 定價二、五〇 現代の倫理的批判</p>	<p>東京高等師範教授 荻原 擴先生著 四六判 定價三、〇〇 生活の倫理</p>	<p>文學士 大澤 福田兩先生共編 (四六判) 定價三、九〇 小學に於ける 新訓練の理論及實際</p>	<p>文學士 上野陽一先生著 四六判 定價三、四〇 一問 子供の教養を語る</p>	<p>日本大學普通部主事 中野八十八先生著 定價三、五〇 皇國教育の新使命</p>	<p>和歌山縣師範校前主事 中野八十八先生著 定價三、〇〇 日本精神の把握と教育維新</p>	<p>川崎市田島體験學校校長 山崎 博先生著 定價二、八〇 最近新教育の諸相</p>	<p>和歌山縣師範學校附屬小學校編纂 四六判 定價二、八〇 勞作教育による 各科生活指導の實際</p>
<p>▲著者の鋭敏にして嚴正なる倫理觀に照らして現代生活の諸相を大觀し之を深刻に批判ししもの特殊即普通なる人格生活の根本義を闡明して社會改造を熱願せる力著</p>	<p>▲倫理學の泰斗荻原先生が現代生活の眞相を凝視して嚴正なる倫理的批判を加へ生活の向上を強調せる力著 ▲卓見高邁—論旨透徹—行文雄健—斯界の白眉</p>	<p>▲訓練の意義及任務を説き新訓練の動向と指針を示す ▲學校訓練の施設經營と實際的指導の要訣を期す ▲團體的訓練の目標と其の實際・作業的訓練・學級訓練等…完備せざるなし</p>	<p>▲子供の心身を見つめて其の伸展を熱望する教養愛の閃き ▲一問一答悉く核心に觸れ兒童教養の要諦を説く ▲愛兒を思ひ教へ兒を愛する者の必讀すべき新名著</p>	<p>▲國家非常時に擧ぐる愛國の叫び—熱情烈々と燃えて他を燒かんとす ▲皇國教育の重大使命を荷ふ教育者に光を熱を與ふ近來の快著</p>	<p>▲日本精神の眞髓を把握して教育維新を叫ぶ近來の熱著 ▲言々句句愛國の至情に發する新教育建設の雄圖 ▲卓越せる識見と透徹せる理論とは特に異彩を放つ</p>	<p>▲最新歐米の教育思潮を検討し深究して其の眞相を詳述しそこに採長補短の玉材を抽出して日本教育者の向ふべき大道を明示せるもの</p>	<p>▲勞作教育の精髓に立つ具體的指導精神の指標 ▲各教科の本質に根ざす實力成長の新構成 ▲すべてがこれ教育愛に根ざす研鑽と實驗の結晶</p>

【書育教の書圖治明】

<p>京都府女子師範學校附屬小學校編纂 定價一、五〇 系統的發展的 各教科指導要諦</p>	<p>京都府女子師範學校附屬小學校編纂 定價一、〇〇 系統的發展的 各科指導の要例</p>	<p>川崎市田島體験學校編纂 定價一、四〇 體験作 學習用新教具の研究</p>	<p>東京青山師範學校附屬小學校編纂 (四六判) 定價二、三〇 各科教育の眞髓</p>	<p>福岡縣福岡師範學校附屬小學校編纂 (四六判) 定價二、八〇 教育の純粹相と其指導</p>	<p>東京豊島師範學校附屬小學校編纂 (四六判) 定價三、三〇 吾が校の各科教授案例</p>	<p>徳島女子職業學校校長 安部清見先生著 (四六判) 定價三、〇〇 郷土を中心としたる 行事教育の實際</p>	<p>鳥根縣師範學校附屬小學校編纂 四六判 定價一、八〇 全課程に立つ 生活教育の理論と實際</p>
<p>▲各教科の本質的目的の透徹 ▲各教科新指導原理の闡明—新指導體系の組織化 ▲各學年の發達段階に應ずる系統的發展的過程</p>	<p>▲各教科實際指導の具體案につき指導術の修練を期す ▲劍道の秘傳にも比すべき新指導型式の模範</p>	<p>▲創意創作になる新學習教具種々相の異彩ある展開 ▲教具革新の魁として學習能率の加速度的向上を促す ▲斯界の刺戟劑</p>	<p>▲最新教育思潮により各教科の本質的目的の觀を期す ▲教授の要旨・教材の選擇及排列・教授の方法・教授上の注意等につき多年の研鑽を發表せし底力ある雄篇</p>	<p>▲一身鑲骨精神を盡せる教育經營至純相の具象化 ▲一元的精神と全人教育を目ざす各科教育要諦 ▲各科指導指針の確立と指導方法の明示</p>	<p>▲教授案の巧拙適否は直ちに以て教授能力を左右す ▲本書は斯道の百戰錬磨を經し確信あるエッセンス ▲確たる理論的根據と活用自在を兼ねたる模範案例</p>	<p>▲郷土行事の實際と由來を詳述して極めて趣味多し ▲施設と指導の着眼點・施設と指導の計畫・指導の實際 ▲例・參考資料・實話・講話等充全を極む</p>	<p>▲教育經營の最新機構として長田博士激賞のもの ▲全人教育の歩譜に立つ新潮の尖端と異彩を放てるもの ▲理論を立證する實際—實際を基礎づける理論</p>

<p>文部省社會教育官 水野常吉先生著 (四六判) 定價三、五〇 兒童生徒の個性に適應せる</p> <p>職業指導法</p>	<p>醫學博士 柄原・山崎兩先生共著 (菊判) 定價三、五〇</p> <p>個性教育の新構成</p>	<p>文學士 山根・西村兩先生共著 (四六判) 定價三、〇〇 最新心理學を基とせる</p> <p>個人差の教育指導</p>	<p>奈良縣結崎小學校長 上田信一先生著 四六判 定價二、八〇 診療と</p> <p>個性適應の教育</p>	<p>和歌山縣師範學校附屬小學校編纂 (四六判) 定價四、〇〇</p> <p>吾が校の勞作教育</p>	<p>和歌山縣師範學校訓導 堀内喜一郎先生著 (六判) 定價三、〇〇</p> <p>勞作教育の實際的研究</p>	<p>川崎市田島體験學校校長 山崎博先生著 四六判 定價三、八〇</p> <p>吾が校の體験教育</p>	<p>三重縣栗真實業公民學校校長 城五平先生著 (四六判) 定價二、〇〇 廿一年</p> <p>農村教育と農業教育</p>
<p>▲職業指導の最高權威なる水野先生が畢生の熱著 ▲職業及個性の眞義を明示し職業指導の要諦を述べ ▲職業指導の具體案と社會の實相を細説す</p>	<p>▲全人的全我的個性調査の理想的最新機構の精彩 ▲個性に適應せる最新教育の要諦に立つ典型的具體案 ▲として世に誇るに足るもの</p>	<p>▲新心理學による個人差の實相と調査法の詳記 ▲個人差による教育指導の具象的實際的研究 ▲職業・入學・婚姻等に關する指導の契機</p>	<p>▲我が國に於ける唯一最高の兒童診斷並治療教育 ▲最新個性調査法による兒童實態の精査 ▲最新教育思潮による個性教育の新組織</p>	<p>▲新教育陣に伍して斷然精彩を放つ勞作教育の新經營 ▲新思潮を汲んで各教科の指導要諦を明示せる斯界の ▲雄篇</p>	<p>▲新勞作教育の實施として絶大なる成果を収めしもの ▲特に各科指導の主眼を精説して独自の創意を示す ▲勞作共同の眞義と兒童生活との契機を強調す</p>	<p>▲體験學校經營者として山崎先生の名は餘りにも高し ▲體験教育の眞義を糾明して經營の本義を闡明す ▲體験教育の諸相に互る具體的方案を説きて完璧</p>	<p>▲土に即して土に生くる血涙の教育體験記録 ▲農村の更生を熱願して多年の研鑽と苦心の經營に終 ▲始せる絶讃の力著</p>

<p>東京高等師範學校訓導 鹿兒島登左先生著 定價二、〇〇</p> <p>尋一學習と生活訓練</p>	<p>文部省 普通學務局 編纂 定價三、〇〇</p> <p>現代思想と國民の教養</p>	<p>東京高等師範學校訓導 廣瀬 清先生著 定價三、〇〇 高學年兒童を主としたる</p> <p>道德的訓練の實際</p>	<p>東京外國語學校教授 藤井 章先生著 定價三、〇〇</p> <p>倫理及哲學の諸問題</p>	<p>女子學習院教授文學士 野崎泰秀先生著 定價三、八〇</p> <p>人生と藝術と哲學</p>	<p>東京市視學 福島師範學校主事野口 彰先生著 定價一、三〇</p> <p>形態學的觀と教育の新建説</p>	<p>九州大學心理學助教授 華岡鏡藏先生共著 定價一、〇〇 熊本縣師範學校主事山口達郎先生著 教育基本としての</p> <p>成態心理學概論</p>	<p>兒童劇脚本著者 片岡魯月先生著 定價二、八〇 學藝會に適用すべき</p> <p>標準學習劇 (十五篇)</p>
<p>▲前著 學級經營の理想と實際」を一般論とすれば本書 はその各論の一 最も特殊性に富む一教育の全部。</p>	<p>▲主題目——帝國憲法の特色と國體の精華、社會教育、 職業指導と教育 道德教育の改善、我國體の倫理的 意義。</p>	<p>▲兒童訓育に對する著者多年の體験をまとめられたも の「教へざる教育と訓育」これが本書の根幹思想。</p>	<p>▲現代に於ける倫理哲學の重要問題を縱横に論讀し ▲そこに自ら明快なる説明と解決をなしたるもの。</p>	<p>▲美的靜觀の裡に眞人生を求めんとした人生哲學。 ▲人生を論じ、藝術を、説き宗教を叙せる得がたき心 靈の糧</p>	<p>▲現代教育界の通弊をあげ、教育革新を叫ぶ。 ▲著者獨特の生命觀・宗教觀 社會觀・國體觀を述べ。</p>	<p>▲舊心理學を排撃する最新成態心理學の陣容 ▲新教育の基礎たる新心理學を簡明直裁に説述す。</p>	<p>▲小學校にて數回の實演を試み好評のものゝみ十五篇 ▲各篇、作の梗概・その中心思想・演出上の注意まで ▲記述し使用に便す。</p>



終